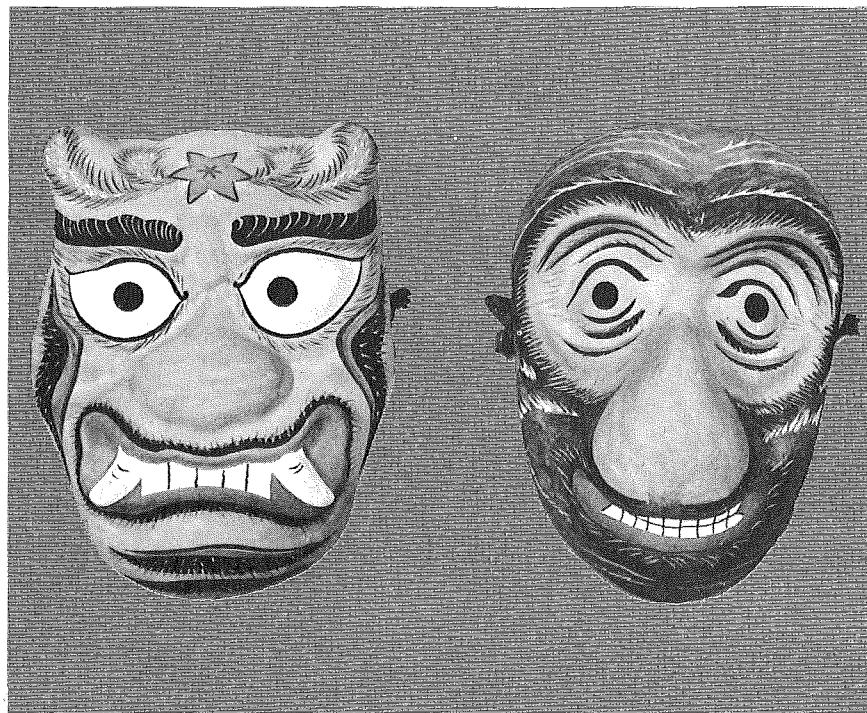


沖縄県立博物館年報



1976
No. 9

目 次

序	館長 外間 正幸
沿革	1
日誌	1
施設・設備	3
事業	4
展示	4
調査・研究活動	11
資料整理	13
資料保存	14
教育普及活動	15
入館者数	19
資料	22
収蔵資料現在高	22
新収蔵資料	22
新収蔵図書	24
主なる新収蔵品写真	31
組織	35

※ 表紙写真：張子玩具 猿面と鬼面
(崎山嗣昌作)

序

昭和50年度は沖縄で海洋博が開催されたため、開催期間中は当館も内外から押し寄せた大勢の観客でにぎわいました。かねて私たちはそのことを予想し、会期中多くの観客に、沖縄の歴史や文化を理解して貰うべく、いろいろと努力をしましたが、予算の都合もあって、体制を充分に整えることができませんでした。

それでも、職員一丸となって特別展に力をいれ「組踊小道具展」や「戦後びんがたのあゆみ展」「多和田真淳氏所蔵考古資料展」等質的に充実したものを催して大きな成果をあげ、観客の中からもしばしばおほめの言葉をいただきました。これもひとえに関係者の方々の御協力のおかげと感謝致しております。

しかし私たちは、すべての観客に満足を与えたとは決して思っておりません。それで今度の年報では、展示その他多くのことについて反省し、問題点をあげながら一年間の活動状況をご報告致すことにしました。どうかご支援ご叱正をお賜わりますようお願い申し上げます。

昭和51年7月20日

沖縄県立博物館長
外間 正幸

沿革

- 1945年 8月
(昭和20年) 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」を設立。
- 1946年 3月
(昭和21年) 首里城周辺の廃墟の中で残欠文化財の収集活動が行われ、「首里市立郷土博物館」が設立される。
- 1946年 4月
(昭和21年) 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称。
- 1947年 1月
(昭和22年) 首里市立郷土博物館は沖縄民政府に移管され、「首里博物館」と改称。
- 1953年 5月
(昭和28年) 首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。東恩納博物館と合併し、規模拡大する。
- 1955年 9月
(昭和30年) 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。
- 1966年 1月
(昭和41年) 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294m²) の新館が落成、移転する。
- 1972年 5月
(昭和47年) 日本復帰に伴い、名称を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1973年 2月
(昭和48年) 国庫補助を得て1,573m²の2階を増築。展示室が3室ふえる。

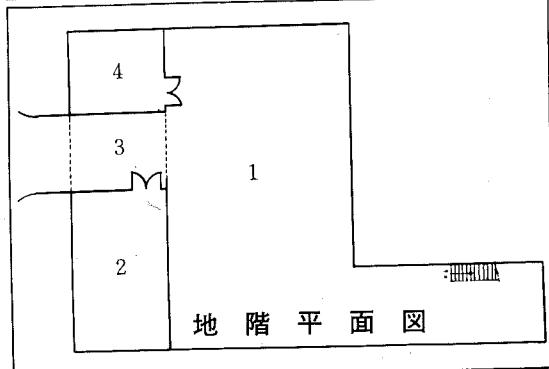
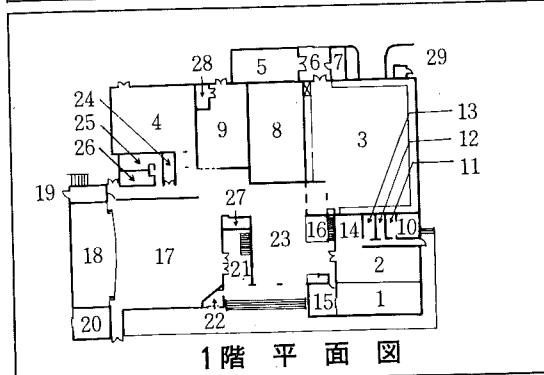
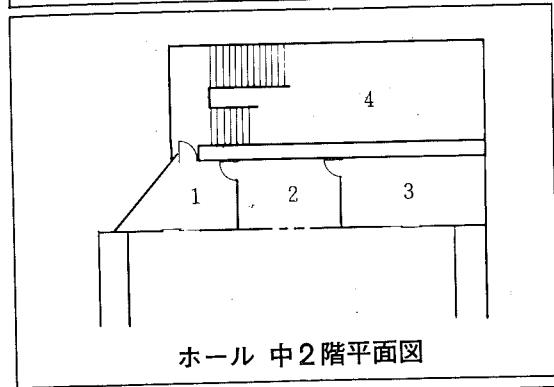
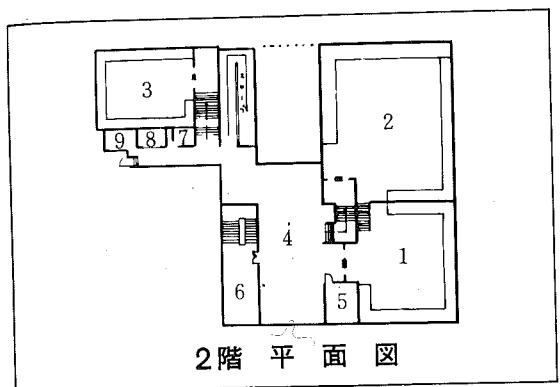
日誌

(昭和50年4月～昭和51年3月)

4. 24 具志川市の喜屋武隆孝氏より「繩目文喜名焼水甕」の寄贈。
- 26 熊本市の又吉昌市郎氏より壺型厨子甕20点他寄贈。
- 26 当館主催「新収蔵品展」開催。
- 26 第14回博物館文化講座「民芸の話」(渡名喜明学芸員)。
5. 15 東京国立博物館「日本出土の中国陶磁展」へ青磁三足香炉等92点貸出。
- 24 第15回博物館文化講座「沖縄の野生の花」(講師高良拓夫小禄高校教諭)。
- 30 当館主催「戦中戦後展」開催。
6. 9 学芸員講習のため大城逸郎、渡名喜明両学芸員東京へ。
- 28 第16回博物館文化講座「沖縄の自然破壊」(講師兼島清疏大教授)。
- 29 煙蒸および展示替えのため閉館。(7月8日開館)。
7. 2 首里の安谷屋節子氏より安谷屋正義作「塔」購入。
- 5 海洋博沖縄館へ染織資料、高麗瓦等328点貸出。
- 12 講堂で沖縄考古学会定期総会開催。
- 20 当館主催「組踊小道具展」開催。
- 26 文部大臣永井道雄氏来館。
- 26 第15回博物館文化講座「組踊の話」(講師当間一郎教育庁文化課専門員)。
8. 1 「沖縄県立博物館年報」第8号刊行。
- 2 二科会沖縄支部主催「沖縄二科展」開催。
- 13 「大城皓也画集出版記念展」開催。
- 23 第16回博物館文化講座「文化財の破壊と保存」(講師当真嗣一文化課専門員)。
- 26 琉球大学写真クラブ主催「写真展」開催。

8. 27 中国海洋学会訪日代表団一行 13名来館。
9. 1 博物館学実習生 2 名受入れ。
- 2 梅文赤絵碗等陶磁器資料 22 点、修理を終了、納品。
- 4 沖縄市の仲宗根秀夫氏より薩摩焼甕等陶磁器資料 25 点寄贈。
- 4 那覇市の金城唯興、友寄英彦氏より綱引旗頭模型、グラ、衣裳寄贈。
- 13 当館主催「沖縄書道史展」開催。
- 16 東京の野原昌人氏より海底マンガン魂 12 点寄贈。
10. 11 当館主催「蜘蛛（クモ）展」開催。
- 16 ハワイの仲真良金氏より三味線「西平開鑓」寄託。
- 16 八重山博物館「沖縄書道史展」へ「ようどれのひのものん」等書跡 30 点貸出。
- 20 ベルリン博物館ペアトリック・フォン・ラゲー氏漆器調査のため来館。
- 25 第 18 回文化講座「蜘蛛（クモ）の話」（講師下謝名松栄普天間高校教諭）。
11. 1 第 4 回沖縄県芸術祭美術工芸展開催。
- 3 『博物館あんない』（琉球文化社刊）刊行。
- 8 文化庁長官安嶋弥氏来館。
- 16 沖縄旺玄会主催「第 9 回沖縄旺玄展」開催。
- 20 東京の村井順氏より、朱塗山水絵堆錦文庫、朱塗漆絵ターコーの寄贈。
- 22 第 19 回博物館文化講座「近代沖縄の美術家たち」（講師玉那覇正吉琉大教授）。
- 27 東京の繩山順吉氏より毛世輝書軸物購入。
- 29 喜村朝貞氏他による「絵画 5 人展」開催。
12. 5 首里の城間栄喜氏より「黄色地牡丹模様びんがた風呂敷」購入。
- 9 沖縄びんがた伝統技術保存会主催「びんがた展」開催。
- 20 第 20 回博物館文化講座「沖縄の葬墓制」（講師名嘉真宜勝読谷村立歴史民俗資料館長）。
12. 26 名護市の宮城妙子氏より「黒塗螺鈿位牌」寄贈。
- 27 煙蒸開始、御用納め。
1. 5 御用始め、展示替えのため閉館（1月 7 日まで）。
- 10 「国王頌徳碑拓本」、「都通事肖像画」等書画 11 点修理を終了、納品。
- 16 当館主催「戦後のびんがたの歩み展」開催。
- 24 第 21 回博物館文化講座「沖縄古代の対外交易」（講師高良倉吉沖縄史料編集所員）。
2. 6 沖縄工業高校主催「デザイン科卒展」開催。
- 14 首里高校主催「染織デザイン科卒展」開催。
- 28 第 22 回博物館文化講座「郷土の地質」（講師大城逸朗学芸員）。
3. 6 第 4 回高教組文化祭作品展開催。
- 13 当館主催「多和田真淳氏所蔵考古資料展」開催。
- 19 那覇市の崎山千代氏より崎山嗣昌作張子玩具等 39 点購入。
- 27 第 23 回博物館文化講座「考古学と私」（講師多和田真淳県史編集審議委員）。
- 31 首里の安里進氏より類須恵器 3 点購入。
- 31 『沖縄県立博物館紀要』第 2 号刊行。
- 31 『沖縄県立博物館収蔵品目録 I』刊行。

施設・設備



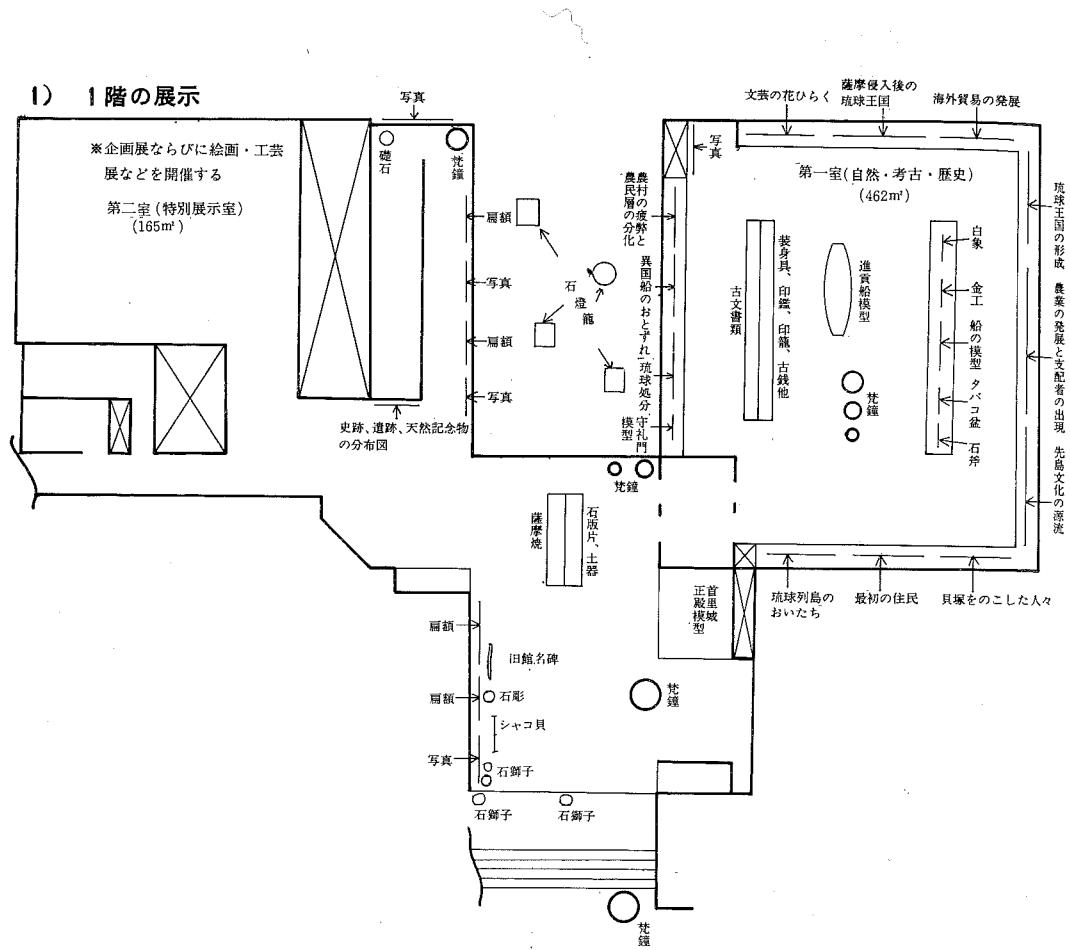
概要		敷地面積 建物面積(m ²)	
展示面積		11,246m ²	
ロビー面積	1階	3,294	
収蔵庫面積	2階	1,572	
駐車場面積	2階	195	
庭園面積	地階	195	
冷房機	計	5,061	
空調機	1階	627	
	2階	870	
	計	1,497	
(チラー) 圧縮機22kW×3台		637	
冷凍能力13.2トン×3台		417	
第1室	1,190		
第2室	1,612		
第3室	1,196		
第4室	434席		
第5室	196席		
講堂	630席		
電灯 3P 100KVA×1台	1階	1台	
1P 30KVA×1台	2階		
動力 3P 150KVA×1台	計		
206kw	業務用電力		
観覧席数	1階	434席	
	2階	196席	
デスク型アンプ	計	630席	
マイク		1台	
室名と面積			
2階	室番号	名	面積 m ²
1	1	(第3室) 美術工芸展示室	265
2	2	(第4室) 民俗展示室	435
3	3	(第5室) 陶磁器展示室	170
4	4	ロビー	257
5	5	空調室	29
6	6	ホール控室	59
7	7	化粧室(女)	6
8	8	化粧室(男)	11
9	9	空調室	12
ホール中2階			
1	1	調光室	13
2	2	映写室	18
3	3	音響効果室	21
1階			
室番号	名	面積 m ²	
1	事務室	83	
2	資料室	83	
3	(第1室) 歴史展示室	462	
4	(第2室) 特別展示室	165	
5	収蔵庫	120	
6	荷解場	32	
7	漆器収蔵庫	11	
8	中庭	152	
9	厨子収蔵庫	91	
10	宿直室	10	
11	湯沸室	7	
12	化粧室(男)	6	
13	化粧室(女)	7	
14	図書室	27	
15	館長室 兼応接室	27	
16	模型コーナー(首里城)	20	
17	講堂	1,023	
18	ステージ	99	
19	控室	15	
20	控室	29	
21	講堂出入口	36	
22	守衛室	6	
23	ロビー	380	
24	倉庫	12	
25	化粧室(女)	21	
26	化粧室(男)	15	
27	売店	10	
28	空調室	10	
29	ポンプ室	5	
地室			
室番号	名	面積 m ²	
1	収蔵庫	195	
2	冷房機室	56	
3	荷解場	28	
	変電室	28	

事業展示

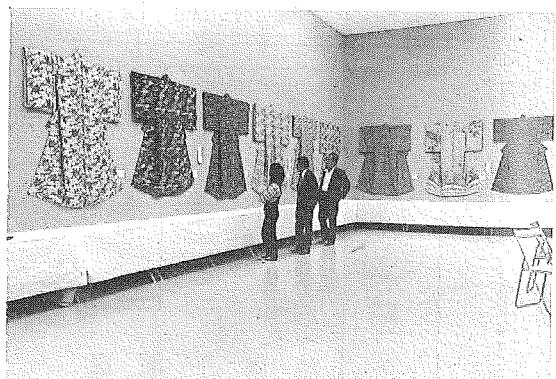
1) 1階の展示

※企画展ならびに絵画・工芸
展などを開催する

第二室(特別展示室) (165m²)

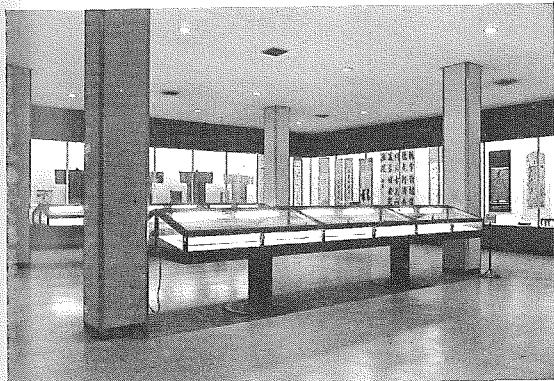
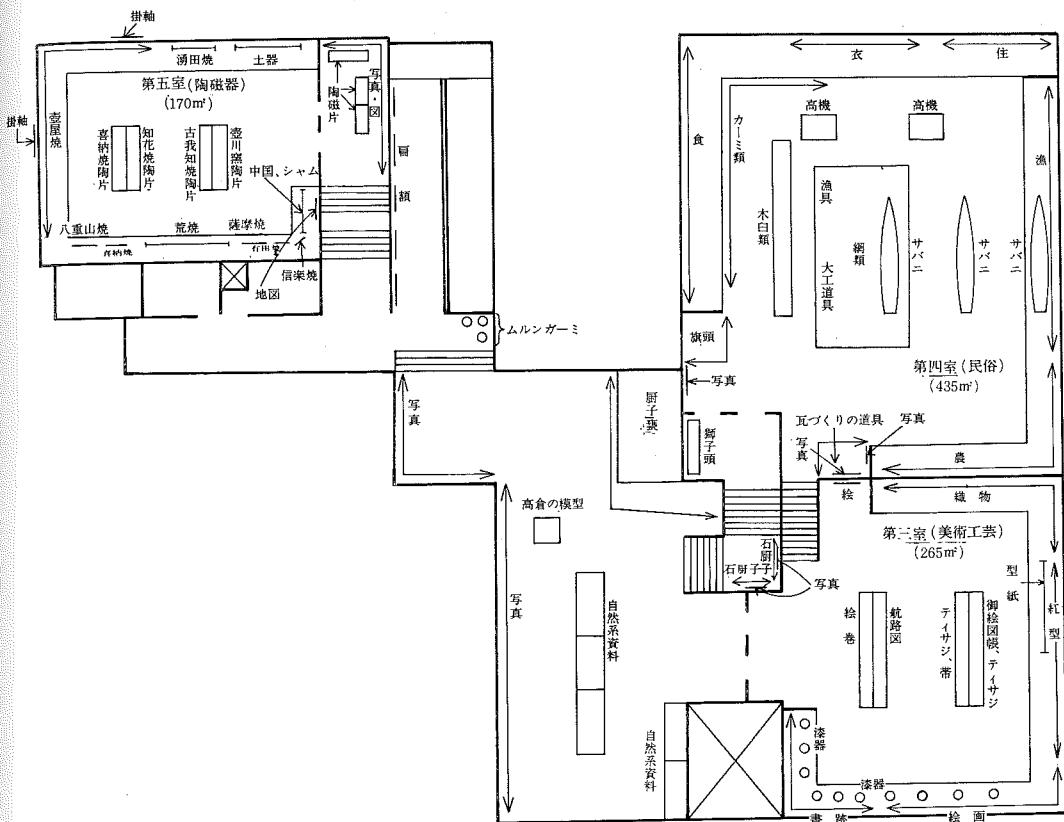


第1室



第2章

2) 2階の展示



第3室



第4室

3) 概 略

従来まで2室の展示室しか持たなかった当館は昭和48年11月に二階増築工事が完了し、あらたに3室増え、合計5室の展示室を持つに到った。次に常設展示室についてその内容の概略をみることにする。

第一室は自然・歴史を主体とした展示をしている。順をおってみていくとまず①琉球列島のおいたち、②最初の住民、③貝塚を残した人々、④先島文化の源流、⑤農業の発展と支配者の出現、⑥琉球王国の形成、⑦薩摩侵入以後の琉球王国、⑧琉球処分となっており、各々実物、絵図、写真、年表、分布図などで歴史の流れがわかるよう展示してある。第二室では企画展などを行なっている。第三室は美術工芸の展示をしている。内容は①書跡（拓本類を含む）、②絵画、③漆器、④染物、⑤織物などである。第五室では陶磁器を展示してある。その他、一階ロビーでは梵鐘、首里城正殿模型、扁額、石彫類を、二階ロビーには厨子甕、高倉模型、自然系資料、戦前の写真などを展示する。

なお、今後の課題としては上記の他に石彫、石碑、民俗資料の砂糖圧搾の石車などの陳列や民家、高倉等の移築を考えている。

一方、第二室ではこれまでいろいろな企画展を行ってきたが、今後は壁ケースの設置、移動ケース、または陳列台などを作り展示内容を豊富にしたい。と同時に館外での特別展も企画して、その実現に努めたいと思っている。

4) 特 別 展

新 収 藏 品 展

期間 昭和50年4月26日～5月25日

会場 第2室

昭和49年4月1日から昭和50年3月31日までに受入れた資料は279点を数える。その中から主なものおよそ100点ばかりを選んで展示公開した。

ここ数年来の新収蔵品をみると、圧倒的に民具が多い。今年度は糸満市の平田清昌氏から一

括購入した民具が94点ある。

寄贈の部では厨子甕が多い。ほかに、佐敷村伊原部落からは味噌甕など大小あわせて40点の寄贈があった。また、中城村津覇と首里汀良町自治会から獅子舞の獅子頭の寄贈もあった。

この他に、陶磁器6点、染織13点があり、更に田名宗経作の龍頭觀音像（彫刻）、考古資料の刻画石（2点）、又吉真栄氏からは三味線の各型12丁などの寄贈が特に目立った。

購入の部をみると、漆器の黒塗螺鈿机と絵画の琉球美女図、花鳥図、それに書跡では周煌の書軸と渡嘉敷兼副の書軸などが主なものであった。他に民俗資料の進貢船模型と屋根獅子、自然系資料のサンゴ22点がある。

なお、三味線、絵画、彫刻、漆器、書跡などは別に展示した。

《主なる出品物》

民俗

- クルマボーオ オーダー ○ バーキ ○ 豆腐箱 ○ ティル ○ 獅子頭 ○ 厨子甕（多数）
- 馬耕用犁 ○ マーガ ○ 木製臼 ○ 味噌甕
- ハガマ その他

考古

- 刻画石（2点）他

漆器

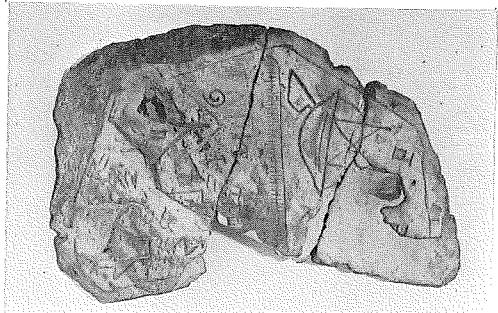
- 黒塗螺鈿机他

染織

- コージャー絹縞着物 ○ 芭蕉布格子着物 ○ 木綿紺地絹縞着物 ○ 木綿麻地格子着物 その他

陶磁器

- 荒焼水甕 ○ アラマカイ ○ 三耳壺 ○ 塩壺 その他



刻 画 石

戦中戦後展

期間 昭和50年5月30日～6月29日

会場 第2室

30年目の沖縄戦終結の日を記念して、標記のタイトルで催した。3ヶ月にわたる攻防戦がほぼ終結するのが6月23日で、この日を記念して沖縄では琉球政府時代から「慰靈の日」と定め、沖縄戦犠牲者20万人の御靈を供養し、学校・官公庁は休日にしてきた。

戦後30年とはいえ、戦後処理がいろいろなところで未処理のまま残されている点もあり、復帰後新たな問題もないとはいえない。戦時中の兵器類や戦後の自給生活具を集め、展示することにより、戦争讃美ではなく、戦争のおそろしさと反省、平和への強い念願を県民にアピールする意味で催した。展示室の壁面を利用して、戦中戦後の写真約100点も展示した。

なお、この展示会には、読谷村立歴史民俗資料館、沖縄市の崎山源盛氏らの協力を得た。

《主な出品物》

戦中資料（武器類）

- 銃器類 ○ 薬きょう ○ 鉄兜 ○ 薬瓶
- 飯ごう等（70点）

ジュラルミン製

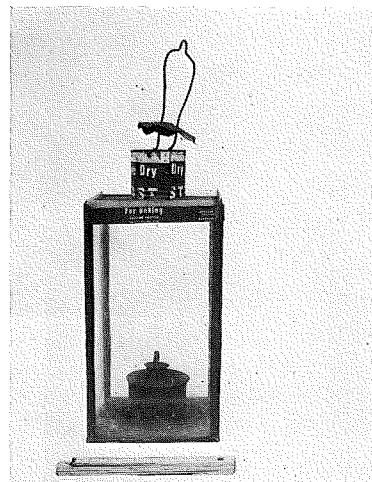
- 鍋釜 ○ やかん ○ 魚類 ○ 茶わん ○ 血
- 盆 ○ アイロン ○ 七輪 ○ 洗面器 ○ 櫛
- かんざし ○ 擃鉢 ○ せんべい焼ごて
- 竿秤など。（60点）

その他

- 薬きょう製の花生け ○ 薬きょう製灰皿
- 瓯詰空甕製三味線 ○ コーラびん切断のコップ
- 終戦直後壺屋焼の碗 ○ 自家製鋳 ○ ガリ版刷り教科書等（30点）

写 真

- 沖縄戦戦闘のもよう ○ 破壊された文化財の新旧の比較 ○ 戦中戦後の難民の生活 ○ 児童生徒のようす ○ いち早く始まった学校生活 ○ テント小屋 ○ かやぶき校舎のもようなど戦中戦後のみじめな戦争体験を実証する写真約百点。



廃品利用の石油ランプ

組踊小道具展

期間 昭和50年7月12日～7月27日

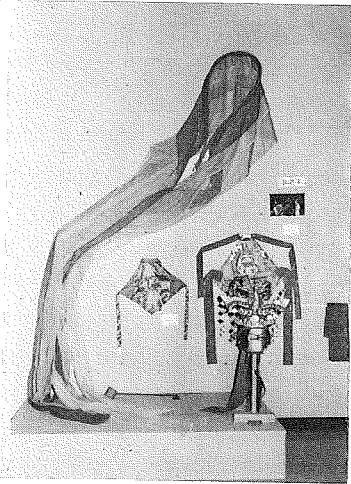
会場 第2室

沖縄の伝統芸能「組踊」は「復帰」の日の昭和47年5月15日に国の指定を受けた。当然のことながらそれに使われる小道具も指定の要件となった。

ところが、小道具について見ると、さほど重視されず、間に合わせで作られることもあった。組踊の小道具は、1838年の上演台本でも衣裳などとあわせて「着付」のなかに明記されており、組踊を演ずるにあたっての重要な要素のひとつになっている。

これを機会に、組踊の小道具に対する関係者および一般の人達の認識を深め、ひいては組踊全体に対する関心を高めるのがこの展観のねらいである。

この展観には、技能保持者の真境名由康、島袋光裕、宮城能造、金武良章の諸氏のほかに後継者の島袋光史、宮城稔、真喜志康忠、島袋光晴、佐藤太圭子、金城美枝子氏および教育庁文化課の協力を得、出品していただいた。また写真家の友利安徳氏には組踊写真パネルを十数点出品していただいた。なお教育庁文化課専門員当間一郎氏には企画、展示の面で全面的な協力



を賜った。

〔主な出品物〕

- 二童敵討のあまおへの衣裳、入道頭巾各種、大扇、太刀、酒具一式 ○きょうちゃこ ○編笠 ○杖 ○槍 ○なぎなた ○花籠、○大帶
- 緋縮絹帶 ○大川敵討村原の兜 ○姉妹敵討の汐汲み桶 ○万歳敵討獅子頭 ○謝名の子と慶運の仕込太刀 ○銘苅子のゆだいこぶし ○銘苅子羽衣 ○柄杓 ○万歳敵討の獅子頭、馬頭
- 花壳の縁の猿衣裳一式 ○地謡用黒朝衣 はちまき ○二童敵討あまおへ陣羽織 ○大川敵討松原の金の麾 ○天冠 ○中城若松衣裳、帶
- 執心鐘入の手燭、鉄丁、盤若面、鬼女の鱗形衣裳、緋さや足袋、座主の紫縮絹衣、腰衣、金襷けさ、燕尾帽、水晶珠数、○孝行の巻の觀音（総計100点）

沖縄書道史展

期間 昭和50年9月13日～10月5日
会場 第2室

沖縄の「書道史」を書跡や拓本、板聯などの資料を年代順に並べることによって、その変遷や傾向を学ぶ目的で催したものである。

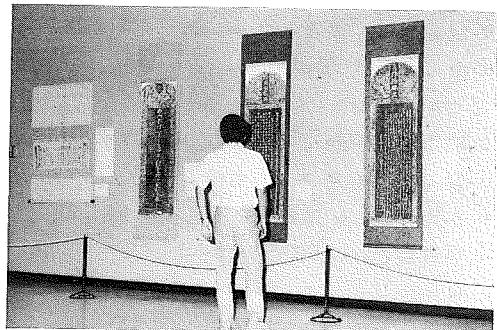
沖縄の書道は、14世紀以前については資料がほとんどなく、知ることができないが、15世紀からかなりすぐれた書が碑文や辞令書などにのこっている。碑文には「安国山樹華木記碑」「萬歳嶺記」「円覚禪寺記」などがあり、謹厳

な楷書体が多く、用筆や結構が欧阳詢や顏真卿に似ているといわれている。14世紀末に中国福建省からの帰化人らの果たした役割も大きく、また、中国留学生の影響力も大きかったと思われる。代々王の冊封に来る中国使節一行のこした書跡も多く見ることができる。

一方、かな文字は12世紀には使用されたと伝えられるが、たしかな記録はない。13世紀以降は、渡来僧や沖縄出身の修業僧の影響で和文学がさかんに行われるようになり、一方では「おもろ」もさかんになる。15・6世紀以降には仙岩長老、17世紀の尊円城間（城間盛久）その弟の藍玉長老、19世紀の渡嘉敷兼副（葉絹烈）がよく知られている。碑文では、16世紀の「たまおどんのひのもん」「崇元寺下馬碑」がよく知られ、辞令書では「田名文書」の初期辞令書や「宮古下地の首里大屋へ与えた辞令書」がよく知られる。

1609年の薩摩入りの後の書体の変遷なども辞令書など古文書によって示した。

なお出品物は、館蔵品を軸とし、他に県立図書館をはじめ、比嘉晴二郎、親富祖永吉、和氣政雄、天野鉄夫、大浜家の各氏に協力をたまわった。



〔出 物〕

拓本

- 園比屋武御嶽額（1519年）○国王頌徳碑（1522年）僧仙岩書 ○真珠湊碑文（1522年）○崇元寺下馬碑（1527年）○ようどれのひのもん（1620年）伝藍玉長老書
- 本覚山碑文（1624年）伝藍玉長老書
辞令書・古文書
- 宮古下地の首里大屋へ与えた辞令書

(1595年) ○ 銘苅大屋子への辞令書
(1736年), (1741年) ○ 中山王尚灝から酒井若狭守への書簡 (19世紀初期)
○ 天頃里之子親雲上への褒美状。(1806年)

書跡

- 寿 (尚温王書 18世紀末期) ○ 漢詩 (程順則書 18世紀中期) ○ 和歌 (読谷山王子朝恒書 18世紀後期) ○ 古聖十無益 (伝渡嘉敷兼副書 19世紀初期) ○ 和歌 (渡嘉敷兼副書 19世紀初期) ○ 漢詩 (尚育王書 19世紀初期) ○ 聰 (鄭孝徳 18世紀末期) ○ 漢詩 2点 (鄭嘉訓。19世紀初期) ○ 漢詩 (鄭元偉。19世紀中期)
- 漢詩 (鄭徳潤) ○ 漢詩 (伊江王子尚健 19世紀中期) ○ 和歌 (浦添王子朝熹 19世紀中期) ○ 和歌 (宜湾朝保 19世紀中期) ○ 出師の表 (山城正忠 昭和9年)
- 漢詩 (翠宮城邦弼 1960年ごろ) ○ 色紙 (松山王子尚順 1940年ごろ) ○ 漢詩 (謝花雲石 1968年ごろ)

クモ (蜘蛛) 展

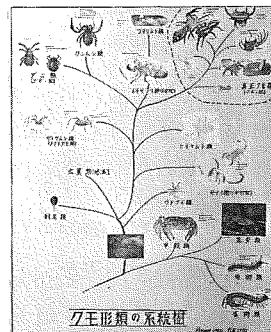
期間 昭和50年10月11日～26日
会場 第2室

ひさびさの自然系資料の展示紹介である。約15年間、琉球列島の島々をくまなく調査採集された、あるいは交換して得た“クモ”類を下謝名松栄氏(県立普天間高等学校教諭)の好意で展示了。

現在、琉球列島からは38科127属206種のクモが知られている。今回は、琉球列島産約120種、台湾産約60種、米国産約40種で、それにクモ類の仲間としてサソリ類、サソリモドキ類、ザトウムシ類など約28種の浸液、乾燥標本を展示了。それと同時に大型パネル12枚を使用しクモ類の写真、クモの解剖図、クモの分布図それにクモと昆虫の相違点などわかりやすい説明がなされた。

なお、観覧者の大部分は児童・生徒同伴であった。又展覧最終日には、下謝名松栄氏を講師

に招いて“クモの話”と題し、スライド映写を含め約2時間の講演が行なわれた。



戦後のびんがたの歩み展

期間 昭和51年1月16日～1月29日
会場 第2室

戦後のびんがたの歩みを追ってみると、次のような特徴が見られる。

- (1) 戦後のびんがたは、廃墟の中で材料さがしや道具の工夫、作製から始めなければならなかつた。
- (2) 戦後のびんがたは、再興の立役者が代々びんがたを家業としてきた城間家の栄喜氏、知念家の績弘氏であったという意味で、びんがたの正統性を継承しているといえる。
- (3) 戦後の生活が戦前に比して大きく変化したことや、沖縄が米軍支配下におかれたために、戦前では考えられなかった用途面における種々の試みがなされた。
- (4) 森田永吉氏(故人)、名渡山愛順氏(故人)、末吉安久氏、大城貞成氏、屋宣元六氏など、戦後の沖縄の美術界において指導的立場にあつた画家たちが、びんがた製作にたずさわった。
- (5) びんがたを家業とする城間鶴子氏(栄喜氏夫人)、道子氏(同令嬢)の他に、びんがたの家系と無縁な名渡山千鶴子氏、渡嘉敷貞子氏、藤村玲子氏等の女性が参加した。
- (6) 1958年、首里高校に工芸課程(現在の染織デザイン科)が誕生し、びんがたが正科としてとりあげられた。
- (7) 1973(昭和48)年県の指定文化財となった。

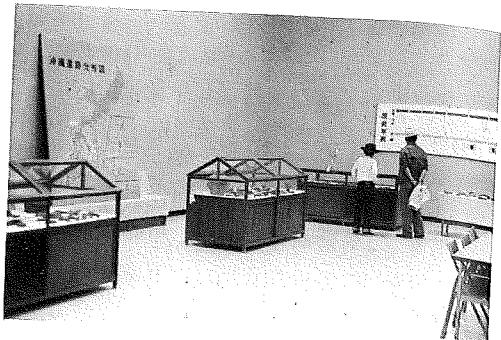
その他にも多くの個人、団体、マスコミ等が戦後のびんがた再興に寄与しているが、ここでは製作活動に携った人びとに焦点を絞って関連資料約200点を展示した。この特別展に出品された資料の一部と調査報告が当館発行の『沖縄県立博物館紀要』第2号に掲載されている。この特別展開催にあたって下記の方々の多大な御協力を得ることができた。ここに記して感謝の意を表したい。

城間栄喜氏、同鶴子氏、知念績弘氏、同績元氏、末吉安久氏、名渡山千鶴子氏、名渡山愛拡氏、大城貞成氏、屋宜元六氏、田名克子氏、徳村光子氏、大宜味ツル氏、田代孝子氏、森田文氏、玉那覇道子氏、藤村玲子氏、稲嶺一郎氏、大城清正氏、楚南光子氏、首里高校染織デザイン科、外間正幸氏



〔主な出品作品・資料〕

- びんがた古裂 ○ 軍用地図製型紙 ○ ハトロン紙製型紙 ○ 筒描用筒 ○ 型彫用小刀・シーグ ○ 筒描宝船模様風呂敷 ○ ゴム製下敷 ○ 食膳 ○ 筒描きふとんカバー ○ 段ボール製屏風 ○ ネクタイと型紙 ○ クリスマスカード ○ スカート ○ のれん ○ テーブルクロス ○ 壁かけ ○ 帯 ○ ハンドバッグ ○ パラソル ○ 開鶴模様屏風 ○ 型絵染め「清明祭の頃」 ○ 灰色地若松筐船模様着物 ○ 踊衣裳「梅」 ○ 波に楓模様帯 ○ 葡萄色地竹蝶末広模様着物 ○ 鏡台掛



多和田真淳氏による考古学研究は、昭和7年頃から着手され、読谷村長浜貝塚・具志川市地荒原貝塚など多くの遺跡を発見・調査され、その資料を保管させていたようであるが、今次大戦によって消失してしまった。

戦後の考古学研究は、戦後の混乱した情勢から漸く立ち上った1950年代から始められ、現在に及んでいる。その間に、北は奄美から南は八重山、波照間まで各地に所在する遺跡を調査され、その資料は、時代的には沖縄の貝塚時代前期（約400年前）から晩期（約100年前）に及ぶ貴重な資料で、130余の遺跡から収集されたものである。

1年がかりで、漸く資料整理を終えたので、博物館文化講座「考古学と私」（講師・多和田真淳氏）と併行して特別展を企画した。

展示資料の殆んどは、沖縄の考古学研究の基礎をうち立てた氏の労作「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」の基礎資料となったものであり、また、最近の乱開発によって遺跡ごと破壊されたところのものも含まれている。

展示準備や備品に不十分な点があって、寄託者の意に十分沿い得たかどうか、企画者として不安な点もあったが、小中高生や一般の来館者が多く、展示期間を延長するなど好評を博した。

なお、「寄託資料一覧表」および写真131枚からなる『図録』を印刷し、配布した。

多和田真淳氏所蔵考古資料展

期間 昭和51年3月13日～4月11日

会場 第2室

4) 第2室(特別展示室)

調査・研究活動

展示一覧

昭和50年4月～昭和51年3月

月日	展示会	主 催 者
4.26～5.25	新収蔵品展	当 館
5.30～6.29	戦中戦後展	当 館
7.12～7.27	組踊小道具展	当 館
8.2～8.10	沖縄二科展 沖縄支部	二科会 沖縄支部
8.13～8.24	大城皓也画集出版 記念展	大 城 皓 也
8.26～9.7	写真展	琉大写真 クラブ
9.13～10.5	沖縄書道史展	当 館
10.11～10.26	蜘蛛(クモ)展	当 館
11.1～11.14	第4回県芸術祭 美術工芸展	沖縄県 教育委員会
11.16～11.22	第9回沖縄旺玄展	沖縄旺玄会
11.29～12.7	絵画5人展	喜村朝貞他
12.9～12.14	びんがた展	沖縄びんがた 伝統技術保存 会
1.16～1.29	戦後のびんがたの 歩み展	当 館
2.6～2.8	デザイン科卒業作 品展	沖縄工業高校
2.14～2.22	染織デザイン科卒展	首里高校
3.6～3.7	第4回高教組文化祭 作品展	県高教組
3.13～4.11	多和田真淳氏所蔵考 古資料展	当 館

1) 概 略

この一年間の調査・研究活動を概観してみると、各学芸員の専門分野(分担)の調査・研究活動、資料収集活動が地域的には主として県内を中心に、一部、国外(韓国・中華人民共和国・台湾・東南アジア)に及んでいる。その内容も美術工芸、民俗・民具、考古、地質の諸分野にまたがり、成果は博物館紀要や他の学術団体の出版物に報告されている。

このような旺盛な研究意欲に反し、残念なことは、博物館大会や学芸員研修会への参加旅費を含む、調査・研究の旅費がきわめて少ないとである。県内の調査・研究旅費は、公費(当館の調査旅費や他機関からの調査依頼による別途旅費)や私費によって維持されているが、県外や国外の調査費用は予算措置が零であり、すべて私費である。

沖縄をとりまく地理的、文化的位置を考えた場合、周辺地域の研究は当然であり、積極的に推進されなければならない。そのための予算措置はぜひ講じなければならない。

その他、今後の課題の一つとして、研究面での提携化、総合化が必要であろう。また、博物館の機能上で必要な展示・保存・分類面の研究も、今一步推進される必要がある。

2) 調査研究活動および研修活動

① 県内および国内での調査・研究活動

昭和50年

4/1～4/5 民具収集および調査のため久米島へ(上江洲)

6/9～6/29 後期学芸員講習 於東京
国立社会教育研修所(大城・渡名喜)

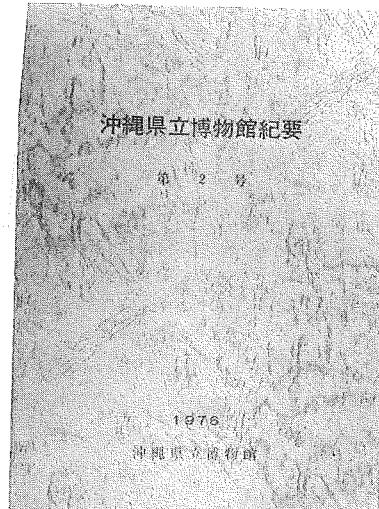
6/23～6/24 久米島稲穂祭取材のため久米島へ(上江洲)(依頼)

8/6～8/7 織物調査のため今帰仁村へ(渡名喜)

8/10～8/16 平得仲本御嶽遺跡の発掘調査
のため石垣市へ(新田)(依頼)

8/12～8/14 県地質図作成のための基本調査、名護市嘉陽から東村一帯へ(大城)(依頼)

- 8/12~8/14 民具・民芸品実態調査のため
国頭村大宜味村へ（上江洲）（依頼）
- 8/16~8/18 民俗調査のため久高島へ（上
江洲）（依頼）
- 8/26~8/29 県地質図作成のため基本調査、
平安座島、宮城島、伊計島へ（大城）（依頼）
- 9/8~9/12 民具・民芸品実態調査のため
多良間島へ（上江洲）（依頼）
- 9/17/9/22 陸性マンガン・ノジュールの
分布地調査のため佐敷村～今帰仁村へ（大城）
- 10/7~10/12 県地質図作成のため基本
調査、与那国島へ（大城）（依頼）
- 10/20~10/23 九博協主催芸員研修大会
出席のため佐賀県立博物館へ（新田）
- 10/26~10/30 日博協主催全国博物館大会
出席のため東京へ（上江洲）
- 11/13~11/20 基地内文化財調査のため普
天間飛行場・キャンプ桑江・キャンプ瑞慶覧
・嘉手納飛行場へ（新田・上江洲）（依頼）
- 11/20~12/25 びんがた調査 首里・那覇
一帯（渡名喜）
- 11/22~11/25 民具学会出席のため東京へ
(上江洲) (私費)
- 12/8~12/13 埋蔵文化財分布調査のため
伊平屋島へ（新田）（依頼）
- 12/15~12/29 民俗調査のため奄美大島へ
(上江洲) (依頼)
- 昭和51年
- 1/14~1/19 民俗調査のため沖永良部島へ
(上江洲) (依頼)
- 1/30 陶器調査で壺屋へ（渡名喜）
- 2/16~2/20 陶磁器調査のため奄美大島・
沖永良部島へ（宮城）
- 3/17~3/20 遺跡調査と資料収集のため今
帰仁村へ（新田）
- 3/23~3/26 陶磁器調査のため宮古へ（宮
城）
- 3/24~4/1 地質構造の調査と化石採集会へ
の参加のため高知県へ（大城）
- ② 外国での調査・研究活動
- 5/2~5/6 韓国－釜山・慶州・大邱における史跡・文化財の調査（上江洲・宮城・渡名喜）（私費）
- 7/2~7/18 中華人民共和国を訪問（北京から上海にいたるまでの各都市の文化財を視察、



沖縄県立博物館紀要第2号

- 見学) 沖縄県各界友好訪中団の文化関係の一員として参加（館長・宮城）（私費）
- 7/15~7/24 民具調査のため台湾へ（上江洲）（依頼）
- 3/11~3/16 文化財調査のため韓国・済州島へ（宮城）（私費）

3) 著作・論文その他

昭和50年

- 4月 沖縄関係やきもの文献目録（「やちむん」第5号）（宮城）
- 5月 博物館資料紹介 ハロビア貝の化石（「教育沖縄」第13号）（大城）
- 7月 柳民芸論における伝統と現代（「新沖縄文学」29号）（渡名喜）
- 7月 博物館名品紹介 黄色地芭蕉布紺絣着物（「教育沖縄」14号）（渡名喜）
- 7月 伊野波のシヌグ、久米島の6月稻大祭、田名のウンジヤミ（「親泊康香写真集－アシャゲの遊び」）（上江洲）
- 7月 民具にみる沖縄一竹製品・カヤ容器、農工具を中心に（「新沖縄文学」29号）（上江洲）
- 9月 博物館名品紹介 ゆしひん 嘉瓶「教育沖縄」15号）（宮城）
- 12月 博物館名品紹介 二条平行線文かめ型土器（「教育沖縄」16号）（新田）
- 昭和51年
- 1月 玉城村字糸数佐南原出土の石器について（「南島考古だより」第17号）（新田）

2/13~2/20 東南アジア美術工芸の旅「陶磁器」(「琉球新報」に5回にわたり連載) (宮城)

2/15 沖縄のやきもの(「総合事務局報」35号) (宮城)

2月 東南アジア美術工芸の旅一民具一(「琉球新報」に7回にわたり連載(上江洲)
3月 沖縄県民具・民芸品実態調査報告書(沖縄開発庁刊) (上江洲・伊差川新共同執筆)

3月 縄文前期の曾畠・轟系土器についてー沖縄最古の土器をめぐってー(「都市新聞」10号) (新田)

3月 沖縄県立博物館紀要 第2号
久米島の地質ー特に琉球石灰岩と完新世イリビシ石灰岩についてー(大城)

糸満市喜屋武同村貝塚出土の曾畠・轟系土器について(新田)

野国第2遺跡発見の曾畠・轟系土器について(新田)

金城次郎年譜(宮城)

戦後のびんがたの歩み(渡名喜)

池口権四郎の報告書『久米島事情』(上江洲)

資料整理

当館は、終戦直後のいまだ硝煙消えやまぬ中から、建造物の破片や石彫品の残欠を収集し、整理し、保存展示することからの出発であった。その後、戦災の少なかった島や本土での資料収集が活発にすすめられ、ようやく今日の姿になりました。

しかし、その間には博物館の移転、それに伴う名称変更、合併、新築移転等をくりかえし、その度に資料整理作業にも何らかの影響を受けてきた。その間には、海外へ流出した貴重な資料の返還もあり、逆に落ちつきを取りもどした中で、ようやく建造物の復原が続けられ、収蔵品の一部が元の場所へもどされるということもでてきた。当館の過去30年の歩みは、少し大きさな表現がゆるされるならば、そのまま戦後の沖縄の混乱期を象徴しているようなものである。

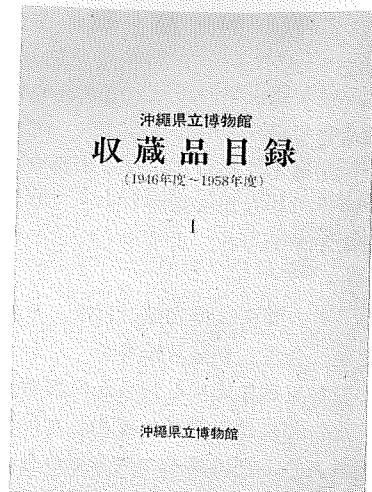
当館では、はじめのころ購入(A)、寄贈(B)、収集(C)、返還(D)の4項目に分け、その中でおのおの陶器、漆器、織物、書画、木彫、石彫、金属、雑の8つに細分類していた。

その後、購入、寄贈、収集、返還別の台帳は廢止し、従来の分類をさらにふやして16項目に分類した。すなわち絵画(A)、書跡(B)、彫刻(C)、建築(D)、陶磁(E)、染織(F)、漆器(G)、金工(H)、歴史(I)、貨幣(J)、楽器(K)、装身具(L)、民俗(M)、考古(N)、その他(O)、自然(X)の16項目である。その後、「楽器」を「音楽芸能」に改め、「その他」を廃し、「武器・武具(O)」「戦争(P)」を加えて17項目にした。

しかし、この分類は、ややもすれば美術工芸偏重の傾向が見られ、総合博物館を目指している当館にはふさわしくないと思われる所以、さらに改正する必要がある。すなわち①自然資料、②歴史・考古、③民俗、④美術工芸の4項目を柱として、各項目の中で細分類することが望ましいと考えられるので、目下その準備中である。

昭和50年度予算ではじめて「収蔵品目録」の第1集を発行した。これは17項目に分類した古い方法によったもので、1958年までの資料をまとめた。今後、第2集、第3集と出版

資料保存



沖縄県博物館収蔵品目録Ⅰ

を重ね、その後で新しい分類方法の具体的な検討をはじめる予定である。

この資料整理の仕事は、いまやっと緒についたばかりであり、今後長期間かかることが予想される。資料受入台帳、収蔵品原簿、各分類別の台帳などの整備もいま着々とすすめられているし、残欠資料の修復も行われているので、遠からず難問は解決するはずである。

1) 収蔵施設

当館の資料収蔵施設は地下収蔵庫 195m^3 、美術工芸収蔵庫 120m^3 、厨子甕収蔵庫 91m^3 、漆器収蔵庫 11m^3 の計 417m^3 である。

建物総面積が $5,061\text{m}^2$ であるから収蔵庫の比率は約 8% である。

資料の収納状況は、地下収蔵庫には民俗資料（主として民具類）、考古資料、木彫資料、金石資料および陶磁器資料の一部が保管され、美術工芸収蔵庫の一階には陶磁器資料が、中二階には書画、染織資料などが保管されている。漆器収蔵庫と厨子がめ収蔵庫には、それぞれ漆器と厨子がめを主とした民俗資料が保存されている。他に第3展示室横の空調室を利用して考古収蔵棚が設けられている。

また、地下収蔵庫、美術工芸収蔵庫、漆器収蔵庫内には除湿機が装置されているなど、保存管理に細心の注意を払っているが、他方、予算措置が講じられないために地下収蔵庫の場合は保管棚の設備が十分でなく、資料保存上、いろいろの問題を抱えている。

2) 燻蒸と空調

資料の保存上、特に配慮しなければならない点は燻蒸と空調であろう。

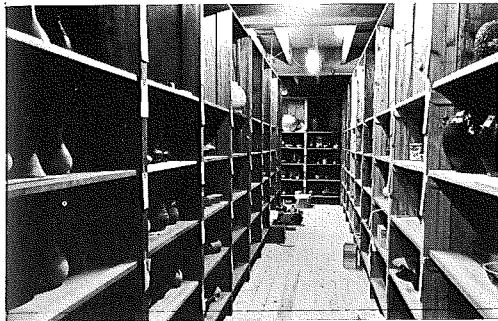
燻蒸は年2回（6月下旬、12月下旬）行なわれている。燻蒸剤としてメチルプロマイドを使用している。燻蒸個所は収蔵庫を始め全施設で行なわれている。

日頃は資料棚や抽出式にナフタリンを入れるなどして虫除けを行なっている。

また、スライドやネガの保存は、デシケーターの中に入れ、シリカゲルを入れて乾燥を保っている。

空調は夏場の5月上旬から11月にかけて、開館時間の昼間だけ行なわれ、夜間は行なわれていない。

冷凍機は3台あるが、1台づつ交互に運転し、1台の冷凍能力は $13.9\text{t}/\text{日}$ である。エヤーハンドリングユニットは5ヶ所に設置され、



1階収蔵庫

ウォーターチーリングユニットで冷水をつくり、各空調室のエヤーハンドリングユニットにより空気調和が行われている。この操作で、収蔵庫と展示室は、湿度 65%~70%，温度 25°C 前後維持されるようになっている。

その他、除湿機が収蔵庫と展示室に置かれ、除湿能力は 290 cc/h (温度 30°C で、湿度 60% の時の除湿能力) である。

しかし、空調施設の改善や年中空調操作のための予算措置など、今後改善すべき問題点ものこされている。

3) 資料の修理

年度内に修理された資料は下記のとおりである。予算措置がきわめて少ないことも問題点であるが、その他、県内に修理技術者が少ないことや、当館に保存修理室がないことも大きな隘路となっている。

修理した資料

年月	資料名	点数	金額
昭和50年9月	ひんがた型紙	5点	80,000
9月	梅文赤絵碗他	22点	84,000
51年1月	雲石書他	10点	160,000

教育普及活動

昭和50年度の教育普及活動の特徴としては、まず、昨年度から開講している「博物館文化講座」の定着化があげられるだろう。一般市民対象の教養講座として開始されたものだが、その通りに各層の人々が聴講に来られ、おほめの言葉もいただいている。ただ 630名収容のホールを会場として使っているため、広すぎるという批判や、演台が高すぎて、講師と聴講者との間のコミュニケーションがうまくいかないといった問題点があり、来年度から特別展示室の利用も考えたい。

教育普及活動としてもうひとつ特筆しておきたいことは、「絵はがき」と『博物館あんない』の刊行である。従来、当館資料の解説や図録を求める人が多いにもかかわらず、これにこたえることができなかっただけに、採算を度外視して刊行してくださった琉球文化社の大城精徳氏には心から感謝したい。

1. 博物館文化講座

沖縄の自然、文化に関する教養講座として月1回開催している。高校生、大学生、主婦、教員、公務員、会社員あるいはお年寄と聴講者は多彩である。参加者は40名から110~120名ぐらいである。12月を除く毎月第4土曜日の午後2時30分からの2時間である(12月は第3土曜日)。今年度は、特別展と抱きあわせの講座をいくつもった。「組踊の話」と「組踊小道具展」、「沖縄の仮名文字」と「沖縄書道史展」、「クモの話」と「クモ展」、「考古学と私」と「多和田真淳氏所蔵考古資料展」などがそれである。この企画は展示と講座それぞれの内容を豊かにできたという意味で有益であった。なお、講座の回数は昭和51年3月で23回を数えた。

昭和50年

4月26日 民芸の話 参加者 101名

講師 渡名喜明氏(県立博物館学芸員)

①はじめに…民芸品の流行 ②民芸とは ③民衆的工芸の位置 ④民衆的工芸の美 ⑤民芸と美

- 術、工芸 ⑥民芸の堕落 ⑦来るべき民芸
 ⑧民芸と民俗学 ⑨ 沖縄の民芸、文化
- 5月24日 沖縄の野生の花 参加者96名
 講師 高良拓夫氏（小禄高等学校教諭）
 沖縄本島以南、与那国島までの野生の花の中から本地域の植物相を特徴づけている花の美しいもの約100種を、スライドを使って紹介した。
- 6月28日 沖縄の自然と自然破壊 参加者41名
 講師 兼島清氏（琉球大学教授）
 1 展望 ①沖縄のイメージ ②現状 ③自然
 破壊 2 各論 ①大気汚染 ②水質汚染
 ③海洋汚染 3 むすび
- 7月26日 組踊の話 参加者96名
 講師 当間一郎氏（教育庁文化課専門員）
 ①組踊とは ②組踊の誕生 ③創作者玉城朝薰について ④組踊以前 ⑤本土芸能（能）との影響関係 ⑥朝薰以後の組踊作者 ⑦組踊の素材、形式、要素、主題 ⑧組踊現存写本について ⑨重要無形文化財指定要件 ⑩今後の問題について
- 8月23日 文化財の保存について 参加者40名
 講師 当間嗣一氏（教育庁文化課専門員）
 ①「文化財保護法」の一部改正について ②文化財保護の意義 ③文化遺産を守る住民運動
 ④沖縄県における文化財破壊の現状
- 9月27日 沖縄の仮名文字 参加者67名
 講師 東恩納千鶴子氏（沖縄仮名文字研究会長）
 ①仮名文字とは ②仮名の手本 ③かな文字練習の順序 ④かな文字の琉球移入 ⑤室町期に御家流が入ってきた ⑥琉球の代表的な和様書家と作品ならびにその系統 ⑦書家の解説 ⑧書風の流れ ⑨むすび
- 10月25日 クモの話 参加者40名
 講師 下謝名松栄氏（普天間高等学校教諭）
 ①クモとはどんな動物か—クモ形類の系統進化、特徴、クモと昆虫との相違点 ②クモの生活型
 ③特殊環境下のクモ—地中生活をするクモ、鐘乳洞内のクモ、水中及び水辺のクモ ④琉球列島に棲息するクモの分布と既設の動物分布線との関係

11月22日 近代沖縄の美術家たち 参加者60名
 講師 玉那覇正吉氏（琉球大学教授）
 ①王国時代の美術（絵画、彫刻） ②明治時代の美術家とその作品 ③大正時代の美術家とその作品 ④昭和時代の美術家



講演中の玉那覇正吉氏

12月20日 沖縄の葬墓制 参加者45名
 講師 名嘉真宜勝氏（読谷村立歴史民俗資料館長）

①沖縄葬墓制の研究史 ②沖縄葬制の概要 ③沖縄の墓制（1）墓とは 2）墓地の名称とその分布 3）墓の分布と位置 4）墓の分類 5）亀甲墓について 6）葬地の移動—墓の変遷）

昭和51年

1月24日 沖縄古代の対外交易 参加者108名
 講師 高良倉吉氏（沖縄史料編集所員）

①研究の歴史と特徴 ②沖縄における古代国家の形成と対外交易 ③対外交易と国際環境 ④対外交易の形式と内容 ⑤むすび

2月28日 郷土の地質 参加者76名
 ①研究史 ②地質調査とは ③地層とは ④模式地の設定 ⑤琉球列島の生いたち

3月27日 考古学と私 参加者85名

講師 多和田真淳氏（沖縄県史編纂審議会委員）

①発見の動機 ②祖先の足跡をたずねて
との出会い ④沖縄先史時代の編年につ
いて ⑤原始農耕論について ⑥沖縄のグシク
性格をめぐる若干の問題について ⑦
沖縄考古学界の成果と課題



講演中の多和田真淳氏

2) 広報活動

博物館の運営・事業、資料等の紹介は出版物やマスコミを通じて行なった。今年度の刊行物は、館の概要や資料を紹介するリーフレット、1年間の諸行事・活動を報告する『沖縄県立博物館年報』第8号、1年間の学芸員の調査、研究成果を報告する『沖縄県立博物館紀要』第2号、『沖縄県立博物館収蔵品目録』および『多和田真淳氏所蔵考古資料展図録』である。また当館編集の絵はがきと『博物館あんない』が琉球文化社から刊行された。博物館の諸活動の報告、予定などをより早く県民に届けるため、来年度から「博物館ニュース」を発行する予定である。

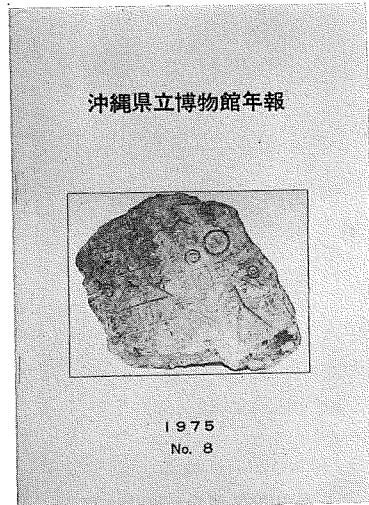
博物館主催の特別展や文化講座の紹介・案内は文書で行うほか、県下の新聞、ラジオ、テレビでも行われた。

(1) リーフレット

B5版変形のアート紙1枚、3つ折である。「沿革」、「所蔵品点数」、「資料紹介」、「来館あんない」からなる。受付に置いて来館者に無料で配付している。

(2) 沖縄県立博物館年報第8号

昭和49年度における当博物館の諸活動の報告である。B4版35ページで、内容は「日誌」「博物館事業」「博物館資料」に分かれる。編集には上江洲均学芸員があたった。



沖縄県立博物館年報第8号

(3) 沖縄県立博物館紀要第2号

当館では従来、職員の調査研究報告を『沖縄県立博物館報』の巻末に掲載していた。しかし昨年度から職員の調査研究体制の強化と普及活動の強化を目的として、調査研究報告を独立させ、『沖縄県立博物館紀要』として毎年刊行することにした。編集担当は上江洲均学芸員である。

(4) 沖縄県立博物館収蔵品目録I

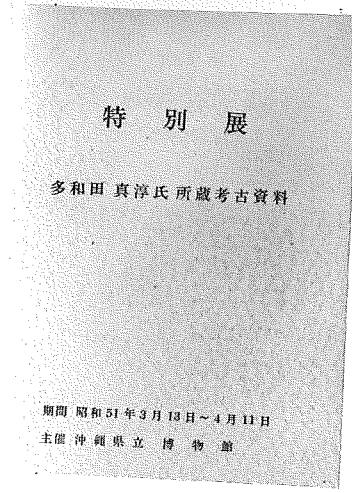
創立時の1948年度から1958年度にいたる収蔵品を17項目に分けて収めた。B5判49ページである。3年計画で全収蔵品の目録を作製する予定であり、来年度は1959年度から、1965年度までの収蔵品目録を刊行することになっている。編集担当は上江洲均学芸員である。

(5) 多和田真淳氏所蔵考古資料展図録

昭和51年3月13日から4月11日まで第2室で開かれた当館主催の「多和田真淳氏所蔵考古資料展」の図録である。B5判、47ページで寄託資料一覧表と写真131枚からなる。関係者に配布した。編集担当は新田学芸員である。

(6) 『沖縄県立博物館あんない』と絵はがきの発行

はじめに述べたように博物館を訪れる観客から絵はがきや図録、解説書を要望されることがたびたびあったが、その要望にこたえられない



多和田真淳氏所蔵考古資料

のが実状であった。そうしたときに、博物館の旧職員で、現在雑誌『琉球の文化』を主宰しておられる大城精徳氏が出版の話に快く応じてくれた。そこで全学芸員で内容の検討を行ない、執筆を分担し、また上江洲均学芸員が編集、渡名喜明学芸員が写真を担当して、11月に刊行することができた。B4判136ページ、図版8枚、写真381枚となっている。英文解説も加えてある。図録と展示解説を兼ねた手頃な案内書として好評である。

絵はがきの方は「琉球の古美術」、「琉球の古陶」、「琉球の紅型」、「琉球の織物」の4種各10枚で、当館所蔵の代表的な資料を紹介している。



博物館あんない

3) 資料紹介

教育庁広報誌『教育沖縄』に資料写真一葉を添えた「博物館名品(資料)紹介」を毎回掲載している。この「紹介」は琉球政府文教局発行の『文教時報』120号(1970年10月)に始まり、今年度で24回を数えた。

4) 資料貸し出し

1) 陶磁器関係資料

- 海洋博沖縄館へ抱瓶1点、高麗瓦片22点、青磁片365点、計388点
- 東京国立博物館「日本出土の中国陶磁展」へ勝連城出土陶磁片55点、青磁三足香炉2点、御物城出土陶磁片30点、他5点、計92点

2) 戦中・戦後資料

- 海洋博沖縄館へ日本軍鉄カブト、水筒製ランプ、ジュラルミン製汁杓子、計3点

3) 石彫資料

- 海洋博沖縄館へ閃緑岩礎石10点

4) 染織資料

- 海洋博沖縄館へ「牡丹模様びんがた風呂敷」他3点

5) 書跡・古文書

- 石垣市立八重山博物館「沖縄書道史展」へ「ようどれのひのもん」、「国王頌徳碑」など30点

6) 切手原画

- 沖縄郵趣連盟「1975年切手展」へ「ツノダシ」、「タイコ貝」など19点

7) 映画フィルム

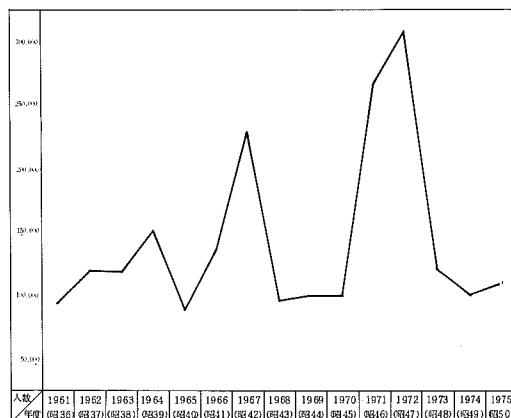
- 沖縄整肢療護園へ「琉球の風物」、「琉球の民芸」、「日本の美—紅型」
- 県立石川少年自然の家へ「御冠船踊り」
- 具志川市教育委員会へ「御冠船踊り」
- 首里高校へ「琉球の風物」、「琉球の民芸」
- 琉球文化連盟へ「琉球古典舞踊」
- 国際電信電話株式会社へ「海の民—沖縄島物語」

入館者数

1) 年度別入館者数

昭和50年度の入館者は110,015人で、昨年度にくらべて8,997人増なっている。ここ15年間の入館者数推移を見ると、当館を使って行われた「日本古美術展」やサントリ一美術館と共に催された特別展が開かれた年は20万人以上の観客があるが、これらの年を除いた11年間の平均入館者数は121,634人であり、昭和50年度は、この平均入館者数を下まわっていることになる。

昭和50年7月から翌年1月まで沖縄国際海洋博覧会が開催されることから、大幅な入館者の増加を予想していただけに意外な結果となっている。



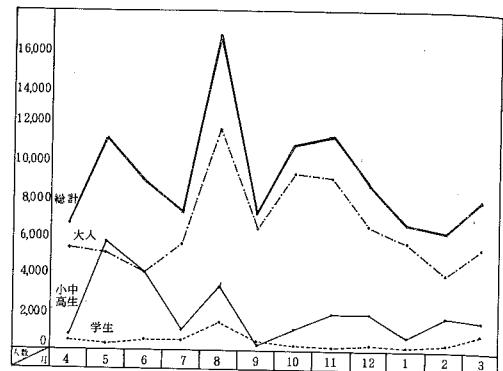
年度別入館者数推移

年度別入館者数(1961年~1975年)

年 度	人 数	備 考
1961年(昭36)	94,097	
1962年(昭37)	119,437	
1963年(昭38)	119,281	
1964年(昭39)	150,935	
1965年(昭40)	89,593	
1966年(昭41)	135,386	11月新館開館
1967年(昭42)	229,464	「日本古美術展」(文化財保護委員会琉球政府共催)
1968年(昭43)	97,062	
1969年(昭44)	100,110	
1970年(昭45)	110,238	
1971年(昭46)	268,524	「日本古美術展」(サントリ一美術館・当館共催)
1972年(昭47)	308,583	「50年前の沖縄写真展」(サントリ一美術館・当館共催) 「日本古美術展」(文化庁・県教育委員会共催)
1973年(昭48)	120,807	
1974年(昭49)	101,018	
1975年(昭50)	110,015	
計	2,144,850	

2) 月別入館者数

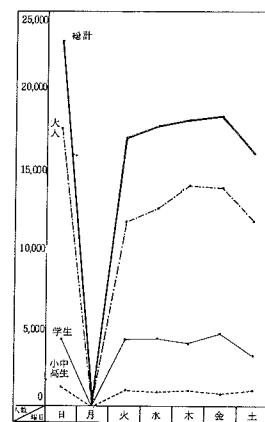
月別入館者数の推移を見ると、海洋博が始まった7月から9月にかけての期間と、海洋博の終る12～1月の期間が昨年度より大幅に増加したもの、それ以外の月は昨年度と同数かそれを下まわる結果となっている。昨年度と比較して大人の入館者が増加したのに対して、小中高生、学生のそれが減少している。5月、8月、10月～11月に入館者が増加する傾向は昨年度と変わらない。5月には学校の見学旅行が集中する傾向があり、8月は夏休み、11月は秋の観光シーズンと学校行事、文化行事が重なるためであろう。



月別入館者推移

3) 曜日別入館者数

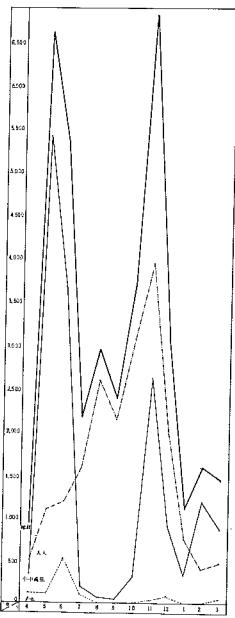
日曜日が最も多く、火～金曜日の期間は変化が少なくて、土曜日が一番少ない結果になっている。月曜日は休館日となっているため入館者数なしとなっている。「個人」の場合、小中高生は土曜日、日曜日が増加の傾向にあるのに対して、大人は土曜日が最も少なく、日曜日が一番多くなっている。土曜日、日曜日の小中高生団体入館者が少ないので、団体見学が平日行われることが多いためであろう。



曜日別入館者数推移

4) 団体入館者数

団体入館者数の推移を見ると、5月、8月、11月がピークをなしており、入館者総数のピークと合致している。団体入館者で目立つことは、海洋博期間中の7月から翌年1月の間に、外国から訪れた団体が集中していることである。国別に見ると近いところで香港、台湾、そしてタイ、ハワイ、アメリカ、遠くはイタリア、アルゼンチン、南アフリカあたりからの来館者もある。



団体入館者数推移

月別入館者数

項目 月	個　人				団　体				合　計				開館 日数	1日 平均
	大人	学生	小中高生	計	大人	学生	小中高生	計	大人	学生	小中高生	計		
4	4,829	468	460	5,757	567	35	328	930	5,396	503	788	6,687	25	267
5	4,063	166	326	4,555	1,085	105	5,399	6,589	5,148	271	5,725	11,144	26	423
6	3,020	118	583	3,721	1,105	461	3,580	5,146	4,125	579	4,163	8,867	25	355
7	3,880	493	931	5,304	1,793	99	185	2,077	5,673	592	1,116	7,381	21	351
8	8,800	1,466	3,278	13,544	2,969	0	119	3,088	11,769	1,466	3,397	16,632	27	616
9	4,130	461	320	4,911	2,325	0	57	2,382	6,455	461	377	7,293	24	304
10	6,170	319	545	7,034	3,197	0	637	3,834	9,367	319	1,182	10,868	25	435
11	6,650	210	454	7,314	2,554	0	1,523	4,077	9,204	210	1,977	11,391	19	600
12	5,100	222	385	5,707	1,512	65	1,491	3,068	6,612	287	1,876	8,775	22	399
1	5,009	207	394	5,610	754	0	309	1,063	5,763	207	703	6,673	20	334
2	3,760	361	604	4,725	379	0	1,191	1,570	4,139	361	1,795	6,295	24	262
3	5,050	812	718	6,580	466	69	894	1,429	5,516	881	1,612	8,009	25	320
計	60,461	5,303	8,998	74,762	18,706	834	15,713	35,253	79,167	6,137	24,711	110,015	283	389

曜日別入館者数

項目 曜日	個　人				団　体				総利用				開館 日数	1日平均		
	小中学生	学 生	大 人	計	小中高生	学 生	大 人	計	小中高生	学 生	大 人	計		個人	団体	計
日	2,850	776	13,466	17,092	1,476	441	4,023	5,940	4,326	1,217	17,489	23,032	47	364	126	490
月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火	1,179	1,008	9,420	11,607	3,071	20	2,237	5,328	4,250	1,028	11,657	16,935	47	247	113	360
水	1,161	848	9,615	11,624	3,086	89	2,918	6,093	4,247	937	12,533	17,717	46	253	132	385
木	1,289	935	9,457	11,681	2,737	85	3,536	6,358	4,026	1,020	12,993	18,039	48	243	132	376
金	1,154	847	9,545	11,546	3,469	65	3,257	6,791	4,623	912	12,802	18,337	48	240	141	382
土	1,365	889	8,958	11,212	1,874	134	2,735	4,743	3,239	1,023	11,693	15,955	47	239	101	339
計	8,998	5,305	60,461	74,762	15,713	834	18,706	35,253	24,711	6,137	79,167	110,015	283	264	125	389

団体入館者数

項目 月	県 内				県 外				国 外				総 数				合 計					
	小中高生		学 生		大 人		小中高生		学 生		大 人		団体数		人員		学 生		大 人		団体数	
	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員
4	9 (5)	328 (125)	0	0	2 (1)	67 (37)	0	0	2	115	9	420	0	0	9	328	2	115	11	487	22	930
5	55 (3)	4,684 (81)	2	106	4 (8)	206 (20)	5	726	0	0	16	887	0	0	60	5,410	2	106	20	1,093	82	6,609
6	31	3,531	1	48	(1)	80	3	129	2	461	13	895	0	0	34	3,660	3	509	21	1,181	58	5,350
7	2	163	0	0	3	80	1	22	1	99	36	1,485	11	317	3	185	1	99	39	1,565	54	2,166
8	1	64	0	0	4	108	0	0	0	0	71	2,172	9	292	1	64	0	0	75	2,580	85	2,936
9	2	45	0	0	7	212	0	0	0	0	55	1,924	7	204	2	45	0	0	62	2,136	71	2,385
10	4	308	0	0	11 (1)	375 (23)	0	0	0	0	68	2,685	11	326	4	308	0	0	79	3,060	94	3,694
11	30	2,599	1	36	10	479	0	2	0	0	85	3,452	5	129	30	2,601	1	36	95	3,931	131	6,697
12	7	870	0	0	5 (5)	175 (140)	1	31	2	90	40	1,787	4	99	8	901	2	90	45	1,962	59	3,052
1	3 (1)	332 (1,179)	0	0	(3) (2)	156 (40)	0	0	0	0	19	600	1	20	3	332	0	0	24	756	28	1,108
2	5 (1)	161 (24)	0	0	6 (2)	251 (25)	3	706	1	27	6	214	1	48	8	867	2	48	12	465	23	1,428
計	165 (110)	42,64 (256)	5	211 (201)	70 (14)	2,535 (1,616)	8	7,92	421 (17,081)	17,081	49	1,435 (1,179)	179 (1,5880)	13	1,003 (1,5880)	491	19,616 (17,081)	723	37,934 (17,081)	731		

* () 内の数字は県内外人団体

資料

1) 収蔵資料現在高

昭和51年3月31日現在

	購入	寄贈	収集	計
絵画 A	52	48	1	101
書跡 B	70	64	49	183
彫刻 C	11	22	163	196
建築 D	4	6	1	11
陶磁 E	394	1,000	256	1,650
染織 F	757	181	12	950
漆器 G	157	121	28	306
金工 H	10	47	19	76
歴史 I	0	29	0	29
貨幣 J	25	464	2	491
楽器 K	4	31	0	35
装身具 L	62	33	14	109
民俗 M	404	886	49	1,339
考古 N	36	51	0	89
武器・武具 O	0	16	2	16
戦争 P	111	1	0	112
自然 X	0	19	0	19
計	2,097	3,019	596	5,712

2) 新収蔵資料

(1) 購入の部

分類	名 称	数 量	分類	名 称	数 量
戦争	日本海軍用おわん他	56(一括)	絵画	琉球中山王使者行列絵巻	1 巻2 卷
貨幣	ドル硬貨	1.6	書跡	梁文炳書軸物	1
"	ドル紙幣	5	"	毛世輝書軸物	1
"	日円紙幣	3	染織	牡丹模様びんがた風呂敷	1
陶磁器	アンダガーミ	2	"	インドネシア産古裂地	1
民俗	壺	43	"	チヤツブ	1
"	高倉模型	1	"	花倉織着物	1
"	仏壇	1	"	ロートン織着物	2
"	イビラフ他	5	漆器	朱塗盆	1
"	張子玩具(崎山嗣昌作)	35	考古	須須恵器	3
絵画	安谷屋正義作「港」	1			

(2) 寄贈の部

分類	名 称	数量	寄 贈 者 名
自然	シヤコ貝	3	浜崎 氏 (渡嘉敷村)
陶器	縄目文喜名焼水甕	1	喜屋武 氏 (具志川市)
民俗	弁当箱他	23	宮城 篤正 氏 (浦添市)
"	壺型厨子甕	25	又吉 昌市郎 氏 (熊本市)
貨幣	硬貨	20	平田 清昌 氏 (糸満市)
"	紙幣	7	" " "
戦争	模擬爆弾	1	" " "
陶器	九母鍋 (カーブウェア)	1	日本観光文化研究所 (東京都)
民俗	米籠他	7	(東京都)
"	アンカー	1	糸数 次氏 (知念村)
"	サギゾーキー	1	国吉 雄信 (那霸市)
"	みんぐどうる	1	平良允 (那霸市)
"	プラ・綱引衣裳	5	友英 唯 (那霸市)
"	旗頭模型	15	金唯秀 (那霸市)
陶器	薩摩焼甕	25	金城根仲宗根 (沖縄市)
自然	魚の化石	1	金城 (大宜味村)
"	シダ植物化石	1	岡藤 (山口県)
"	フズリナ有孔虫の化石	1	" 昌 (川崎市)
"	海底マンガン	12	野原人 (佐川崎敷地)
陶器	荒焼甕	1	普天間敏 (下良村)
民俗	ムイ	1	石嶺 (平良町)
"	サバ	1	上里 (東風平村)
"	屋型厨子甕	1	知念 (那霸市)
"	御殿型厨子甕	2	良登 (那霸市)
"	ヤツクワン	1	高良 (川崎市)
書跡	宜湾朝保和歌	1	米須 (東京市)
漆器	朱塗漆絵ターチー	1	村井 (東京都)
"	朱塗山水絵堆錦文庫	1	" 妙 (名護市)
民俗	螺鈿位牌	1	宮城 (那佐村)
"	素焼壺型厨子甕	19	泉川 (那霸市)
"	木臼	1	渡名喜 (佐敷村)
"	帽子型	2	金城 (那霸市)
"	たて杵	1	外間 (那霸市)
"	高機	1	普天間 (那霸市)
建築	守礼之門模型	1	嘉数 (那霸市)
陶器	薩摩焼甕	1	咲元 (酒造会社)
"	素焼香炉他	6	岡本 (昭和会社)
民俗	牛の鞍一式	1	宮当 (行良名村)
"	パジヤ	1	新城 (鶴源名村)
"	ジュラルミン製なべ他	3	崎山 (沖那霸都)
装身具	演奏用帽子	1	上江洲均 (那霸市)
歴史	沖縄電気K. K. 乗車券	22	伊藤勝一 (京都市)

(3) 寄 託 の 部

分 類	名 称	寄 託 者
樂 器	三味線「西平開鐘」（ケース付） 期間 昭和 50 年 10 月 16 日～昭 52 年 10 月 15 日	仲間良金氏（米国在）

3) 新収蔵図書

購 入 の 部

書 名	部数	書 名	部数
歴代宝案	15	砂模となぞの壁画	1
沖縄の自然－野鳥－	1	よみがえる死の都	1
沖縄のサンゴと熱帯魚	1	マンモスの狩人	1
沖縄の陸の動物	1	手のある神殿の秘密	1
沖縄の貝・カニ・エビ	1	前世紀の怪魚	1
沖縄の山野の花	1	化石魚シーラカンス	1
沖縄の昆虫類	1	恐龍	1
沖縄の海の生物	1	海龍・翼龍	1
沖縄の野鳥・トンボ・蝶	1	まぼろし動物デスマスチルス	1
韓国考古学概論	1	マンモス	1
日本文化のあけぼの	1	人類の祖先	1
照明のデータブック	1	日本伝統織物集成	1
登呂遺跡のなぞ	1	日本染織絵華一紅型・藍型	1
北京原人のなぞ	1	久米島紬	1
黄金の国となぞの文字	1	琉球芭蕉布（上）（下）	2
琉球建築	1	伊勢型（上）（中）（下）	3
古琉球紅型（上）（下）	2	民芸筒描	1
古琉球型紙の研究	1		

寄 贈 の 部

書 名	部数	寄贈者名	書 名	部数	寄贈者名
建設準備ニュース №5	2	名古屋市教育委員会	沖縄の統計	8	県統計課
北海道開拓記念館だより	3	北海道開拓記念館	神奈川県立博物館研究報告	1	神奈川県立博物館
沖縄のしおり	1	沖縄県広報課	復帰特別措置	1	教育庁総務課
大宰府の文化財	1	九州歴史資料館	鹿児島県明治百年記念館建設調査室だより	1	鹿児島県明治百年記念館調査室
48年度九州歴史資料館年報	1	"	釧路市立郷土博物館々報	2	釧路市立郷土博物館
大宰府史跡	1	"	美術館だより	2	和歌山県立近代美術館
視る	12	京都国立近代美術館	国立博物館ニュース	1	東京国立博物館

書名	部数	寄贈者名	書名	部数	寄贈者名
茨城県歴史館だより	3	茨城県歴史館	あるく・みる・きく	9	日本鏡光文化研究所
“ 館報	1	”	那覇 74. 市勢要覧	1	那覇市役所企画部
九州の古見と寺院	1	九州歴史資料館	埼玉県立博物館だより	3	埼玉県立博物館
沖縄県史 文化(Ⅰ) (Ⅱ)	2	沖縄県教育委員会	議会時報	4	沖縄県議会
奈良県観光	3	奈良県観光新聞社	福島県文化センター月報	1	財団法人福島県文化センター
日本の美術	12	至文堂	郷土(民俗)博物館	1	日本観光協会
北海道立青函トンネル記念館 だより	1	北海道立青函 トンネル記念館	京都国立近代美術館 昭和48年度年報	2	京都国立近代 美術館
道立美術館だより	2	北海道立美術館	青森県の漁具	1	青森県立郷土館
やちむん	1	やちむん会	沖縄の自然	1	沖縄地学会
いなぎ歴史散歩	1	稻城市役所 社会教育課	琉球料理	1	月刊沖縄社
創価学会ニュース	12	創価学会沖縄支部	沖縄概観	1	教育庁総務課
49年度 県勢白書	1	教育庁総務課	沖縄学術協議会誌	1	教育庁総務課
明治村通信	12	財団法人 博物館明治村	第18回 沖縄県統計年鑑	1	沖縄県企画調整部
博物館ニュース ほりのうち	1	市立市川博物館	季刊邦楽	1	株式会社邦楽社
正木美術館 出品目録	1	財団法人 正木美術館	むかしの旅	1	豊岡市立登呂博物館
長崎県立美術博物館だより	3	長崎県立美術博物館	博物館のひろば	1	神奈川県立博物館
神奈川県立博物館だより	5	神奈川県立博物館	特別買上文庫目録諸家拓本 (中国、朝鮮)	1	東京都立 中央図書館
収蔵目録	1	千葉県立安房 博物館	特別買上文庫目録諸家書	1	“
北九州市文化財調査報告書 第15集	1	北九州市教育 委員会文化課	遺跡シリーズI 堀之内貝塚のはなし	1	市立市川博物館
高槻遺跡	1	“	遺跡シリーズII 下総国文化のはなし	1	“
立教大博物館 №20	1	立教大学学校 社会教育講座	千葉県化石選集	1	“
アジア文化 第11巻第14号	1	東京東洋哲学 研究所	房総のあげもの	1	“
離島関係資料	1	県企画調整部 離島振興課	美濃輪台遺跡	1	市川市教育委員会
南部会報	1	南部振興会 新田義徳	奈良県立民俗博物館だより	4	奈良県立民俗 博物館
八重山文化研究会 ニュース №15 №16	2	東京八重山 文化研究会	北海道立青函トンネル 記念館だより №4	1	北海道立青函 トンネル記念館
原始の世界	1	埼玉県立博物館	民芸(4月号)	1	きく山民芸店
ミュージアム	12	東京国立博物館	宮古島与那覇邑誌	1	上地盛光

書名	部数	寄贈者名	書名	部数	寄贈者名
山形県立博物館研究報告	1	山形県立博物館	九州歴史資料館研究論集Ⅰ	1	九州歴史資料館
近畿民俗 №62	1	近畿民俗学会	昭和49年業務報告	1	沖縄工業試験場
沖縄の工芸	1	京都国立近代美術館	福島県文化センター月報	2	財団法人福島文化センター
史料館報	2	国立史料館	紀要第6号 海土町、舳倉島	1	石川県立郷土資料館
津山郷土館報	1	市立津山郷土館	郷土と博物館	1	鳥取県立博物館
釧路市立郷土博物館報 №231~233	3	釧路市立郷土博物館	鳥取県立博物館研究報告	1	"
図録	1	成田山靈光館 (史料館)	黙花植物目録	1	"
民俗文化	10	滋賀民俗学会	鳥取県博物館年報	1	"
博物館ニュース	3	山形県立博物館	化石資料目録	1	"
板付周辺遺跡調査報告書	1	福岡市教育委員会	大阪市立博物館研究紀要	1	大阪市立博物館
神奈川県博物館協会会報 第32号	1	神奈川県博物館協会	大阪市立博物館報	1	"
石附忠平寄贈資料目録	1	北海道開拓記念館	美術館だより	7	和歌山県立美術館
稲城市京王帝都相模原線 遺跡発掘	1	東京都稲城市教育委員会	沖縄思潮	2	新里恵二裕立
佐賀県立博物館々報	4	佐賀県立博物館	日本美その伝統と創造	1	サントリー美術館
浦和市立郷土博物館研究 調査報告書	1	浦和市立郷土博物館	釧路醍原総合調査報告書	1	釧路市立郷土博物館
浦和市立郷土博物館報	2	"	北海道開拓記念館調査報告書	2	北海道開拓記念館
自然科学と博物館	1	国立科学博物館	" " 研究年報	1	"
国立博物館ニュース	2	東京国立博物館	沖縄の伝統工芸産業調査報告書	1	沖縄開発庁総合事務局
那覇市史だより 4号	1	那覇市企画部市史編集室	沖縄本島周辺離島調査報告書	1	"
奈良県立美術館年報	1	奈良県立美術館	青森県立郷土館だより	3	青森県立郷土館
奈良県立美術館だより	2	奈良県立美術館	第6.7次伊場遺跡発掘調査概報	1	浜松市教育委員会
昭和50年度広報資料	1	沖縄県教育委員会	沖縄の風	1	西平守栄
自治おきなわ	5	沖縄県町村会	平良市の文化財	1	平良市教育委員会
郷土資料館だより第20号	2	石川県立郷土資料館	交通科学館だより №9	1	交通科学館
みんなの県政 №13	4	沖縄県企画調整部広報係	長崎県立美術博物館だより	3	長崎県立美術博物館
青い海	12	青い海出版社	未来をひらく	1	長野県教育委員会
東京国立博物館紀要	1	東京国立博物館	染織と生活	1	株式会社染織と生活社
昭和48年度山陽新幹線 関係埋蔵文化財調査概報	1	福岡県教育委員会	泰、ビルマ、印度	1	宮里一夫

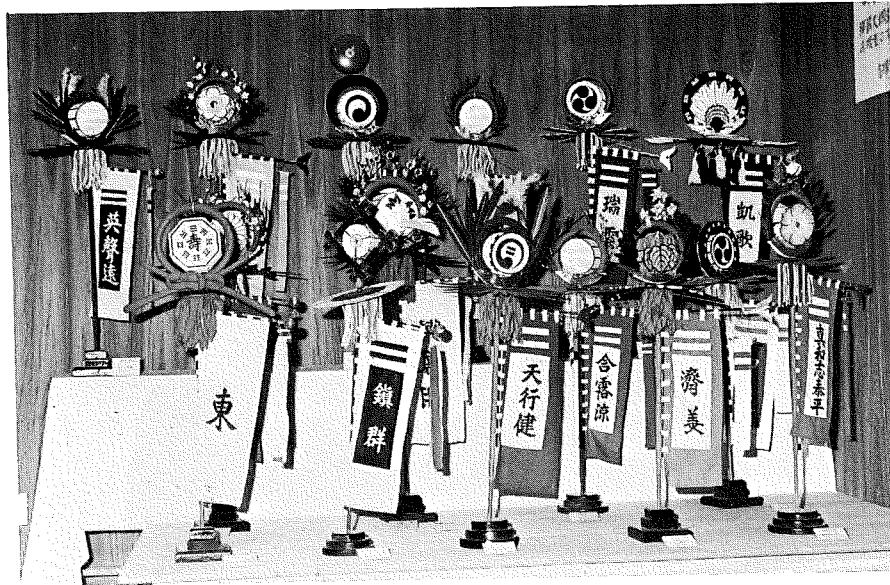
書名	部数	寄贈者名	書名	部数	寄贈者名
国学院大学考古学資料室要覧	1	国学院大学考古学資料室	近代フランス名作版画展	1	千葉県立博物館
福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第2集	1	福岡県教育委員会	第18回学校基本調査報告書及び第20回地方教育行財調査報告書	1	教育庁 総務課
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 VI	1	"	用と美 1975 夏 №14号	1	用と美の会
群馬県立博物館研究報告 第10集	1	群馬県立博物館	石橋美術館々報	1	石橋美術館
群馬県立博物館報第17号	1	"	絵画保存研究所	1	絵画保存研究所
アイヌ文化の森 年報I 伝承のコタン	1	市立郷土博物館	沖縄県電気計算システム	1	教育庁 総務課
市立旭川郷土博物館所蔵品目録 IV	1	"	経済サロン 75.7	1	具志堅宗精
市立旭川郷土博物館月報	12	"	昭和49年度 文化財要覧	1	県教育委員会 文化課
市立旭川郷土博物館だより №20	1	"	岡山民俗 第114号,116号	2	岡山民俗学会
みる、つくる、かたる	4	千葉県立美術館	会報85,86 合併号	1	"
昭和50年度日本博物館協会総会報告書	1	日本博物館協会	博物館研究 通巻85号 №5	1	社団法人 日本博物館協会
市立美術館だより	2	鹿児島市立美術館	安房博物館報	1	千葉県立 安房博物館
建設準備ニュース	1	名古屋市教育委員会	てんまでんじん	1	大阪天満宮社務所
松山市文化財しおり	1	松山市教育委員会	山形県立博物館ニュース	2	山形県立博物館
かりなご、松ヶ谷古墳	1	"	天工開物と日本民具 原野農芸博物館図録第9集	1	原野農芸博物館
釜ノ口遺跡調査報告書	1	"	福島県文化センター月報	1	財団法人 福島県文化センター
埋蔵文化財発掘調査報告	1	"	訓路市立郷土博物館々報 №234.236	2	訓路市立郷土博物館
朝倉橋廣庭宮跡伝承地	1	九州歴史資料館	秋田県立博物館	1	秋田県立博物館
苦小牧市青少年センター	1	苦小牧市青少年センター	日本のきもの №30	1	全日本きもの振興会
菅江真澄と秋田風土	1	秋田県立博物館	ブリヂストン美術館 23	1	ブリヂストン美術館
真崎勇助翁コレクション図録	1	"	青森県立郷土館だより №15	1	青森県郷土館
アジア文化	1	財団法人 東洋哲学研究所	八重山島科人公事帳	1	福岡県矯正管区文化部
北海道のやきもの	1	北海道開拓記念館	相州の鏗漁 神奈川県民俗シリーズ 12	1	神奈川県教育庁
公共済時報	2	公立共済組合沖縄支部	神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告	1	"
国立博物館ニュース	1	東京国立博物館	酒匂川文化財総合調査報告書	1	酒匂川文化財調査委員会
博物館研究	8	日本博物館協会	海事資料館解説	1	神戸商船大学
石川県郷土資料館だより	1	石川県郷土資料館	熊本史学 第45号	1	熊本史学会

書名	部数	寄贈者名	書名	部数	寄贈者名
旅冲縄と海洋博 8月号特集	1	日本交通出版社	鹿児島県明治記念館建設調査室だより	1	明治百年記念館建設調査室
教育沖縄 75.5.13号	1	県教育委員会	第9回東京国際版画ビエンナーレ展	1	東京国立近代美術館
民有林適地適木調査	1	県農林水産部林務課	15人の写真家	1	"
博物館通信 7	2	平塚市委員会	福田平八郎遺作展	1	"
昭和49年度市立市川博物館年報	1	市立市川博物館	現代メキシコ美術展	1	"
博物館だより №21~23	3	"	徳岡伸泉作展	1	"
石川県美術館だより 第26号	1	石川県美術館	ポールデルボー展	1	"
伊場遺跡出土品の解説目録	1	国立浜松市教育委員会	福島文化センター月報	6	福島県文化センター
自然科学と博物館 第42巻 第2号	1	科学博物館	関経連 7.8	1	関西経済連合会
奈良国立文化財研究所年報	1	奈良国立文化研究所	神奈川県博物館協会々報33号	1	神奈川県博物館協会
埋蔵文化財ニュース	2	"	博物館ひろば	1	"
あなたの科学技術	1	科学技術庁振興局普及啓発課	小松市立博物館研究紀要第10集	1	小松市立博物館
カラフトアイヌのひげべら	1	市立函館博物館	昭和49年度北海道立美術館年報	1	北海道立美術館
武蔵野美術大美術資料図書館々報1	1	武蔵野美術大学	道立美術館だより 第28号	1	"
日本出土の中国陶磁	1	東京国立博物館	夏のことみれ	1	平山良明
自然科学と博物館 第42巻 第3号	1	国立科学博物館	下弦の月	1	"
柳田国男生誕百年記念会	1	大阪市立博物館	あけもどろの島	1	"
北海道立青函トンネル記念館だより №5~№6	2	北海道立青函トンネル記念館	月桃のしろき花びら	1	"
稲城市の石造物－稲城市文化財調査報告書 第2集	1	稲成市教育委員会	江戸の型紙	1	サントリー美術館
鐘の戸籍－梵鐘行脚	1	久保仁幸	美術の森 北九州市立美術館ニュース№1	1	北九州市立博物館
伝承文化第9号	1	成城大学民俗学研究所	" " №2	1	"
歴史資料館収蔵資料目録	1	福島県文化センター	北九州市立美術館常設展	1	"
稲築公園内遺跡	1	稲築町教育委員会	河南省画像石拓本	1	"
山陽新幹線関係埋蔵文化財調査概報	1	"	開館展出品目録	1	北九州市立歴史博物館
船橋市郷土資料館だより	2	船橋市郷土資料館	図録新羅の古凡博	1	"
郷土(民俗)博物館	1	日本觀光文化研究所	津田文書編年目録	1	"
北海道開拓記念館だより	2	北海道開拓記念館	南島旅行見聞記	1	"
新潟県美術館報	1	新潟県美術博物館		1	南島研究会

書名	部数	寄贈者名	書名	部数	寄贈者名
動物学 №1, №2	2	国立科学博物館	安満遺跡発掘調査概要	1	"
植物学 №1, №2	2	"	池上遺跡発掘調査概要	1	"
地学 №1, №2	2	"	須賀古墳群発掘調査概要	1	"
晴二郎文庫郷土文献叢書目録 (戦前版の部)	1	比嘉 晴二郎	南島研究 第16号	1	南島研究会
沖縄の空手道	1	長嶺 将真	郷土と博物館第21巻第1号	1	鳥取県立博物館
昭和49年度 社会教育主事等研修まとめ	1	県教育委員会	先史 第9号	1	駒沢大学 考古学研究室
PTA指導者研修会収録	1	"	多賀城と古代日本	1	東北歴史資料館
アジア文化第12巻第2号	1	東洋哲学研究所	東北歴史資料館研究紀要	1	"
日本海の謎	1	金沢大学 紺野義夫	" 年報	1	"
昭和49年度 神奈川県立 博物館年報	1	神奈川県立博物館	" 館報	1	"
「昭和20年」 その時あなたは 大阪市立自然史博物館々報 (特別号)	1	北海道開拓記念館	山形大附属郷土博物館々報	1	山形大 附属郷土博物館
ムゼイオン 第21号 立教大学博物館研究	1	大阪市立 自然史博物館	文化財叢書第65号 名古屋文化史談第二集	1	名古屋市教育委員会
国立科学博物館研究報告 C類 地学	1	立教大学	沖縄県の福祉	1	県企画調整部
" " B類 植物学	2	国立科学博物館	八重山創立 50周年記念会員名簿	1	東京八重山郷友会
" " A類 動物学	2	"	" " 記念誌	1	"
周煌著琉球国志略(下)	1	県立図書館	" (英文)	5	"
養秀	1	養秀同窓会	画集 「琉球」	1	岡田青慶
建築画報	1	株式会社 建築画報社	八重山文化 第3号	1	八重山文化研究会
古代文化 №199, 200	2	財團法人 古代学協会	山陽新幹線市城内遺跡	1	福岡市教育委員会
横須賀市博物館研究報告 (人文科学)	1	横須賀市博物館	蒲田遺跡	1	"
" (自然科学)	1	"	小笠遺跡	1	"
横須賀博物館雑報	1	"	博物館あんない	1	琉球文化社
茨城県立美術博物館要覧	1	茨城県立美術館	ロシアの工芸とイコン	1	サントリー美術館
美術の森	1	北九州市立美術館	那覇市史だより	1	那覇市企画部 市史編集室
要地遺跡発掘調査概要	1	大阪府教育委員会	あなたの科学技術	1	日本科学技術 振興財團
鏽造跡発掘調査概要	1	"	無形文化財要覧 上・下	1	文化庁
大阪府文化財調査速報 第25号 節, 青, 山	1	"	国東のお地蔵さん	1	国東町 歴史民俗資料館

書名	部数	寄贈者名	書名	部数	寄贈者名
文化財保護 第7号	1	東京都高尾 自然科学博物館	鹿児島民俗 第65号	1	鹿児島民俗学会
東京都の自然 第3号	1	"	東北歴史資料館報	1	東北歴史資料館
東京都高尾自然科学博物館 研究報告書 7号	1	"	佐世保市文化科学館 友の会だよりNo.3	1	佐世保市 文化科学館
三重県博物館協会要覧	1	三重県博物館協会	琉球植物誌	1	久場長文
特別展三重の民俗資料	1	"	徳之島採集手帳	1	徳之島郷土研究会
興南研究紀要 第4号	1	興南高校	青山史学 創刊号 1月号～2月号	3	青山学院大学
沖縄文化研究2	2	法政大学 沖縄文化研究所	坂の下遺跡の研究	1	佐賀県立博物館
琉球の方言	1	"	窓辺雑記	1	新匠会
地学教育研究会誌創刊号	1	県高等学校地学 研究会	古文化財の科学 第19号	1	古文化財科学 研究会
図詳ガツケン・エリア 教科事典	1	学習研究社	製陶餘録	1	新匠会
近世の染織	1	サントリー美術館	アジア経済旬報994号～998号	5	財團法人 中央研究所
青森県立郷土館だより	1	青森県立郷土館	染織デザイン教育研究II	1	首里高校
博物館通信 No.12	1	平塚市教育委員会	なぜなぜサイエンス	1	市立名古屋科学館
長岡博男文庫蔵書	1	石川県立 郷土資料館	1975年刊 美術家名鑑	1	美術俱楽部出版部
浜田知明銅版画	1	北九州市立美術館	現代の日本美術	1	"
中国研究月報	6	中国研究所	大畠貝塚調査報告	1	福島県 いわき教育委員会
紀要	1	埼玉県立博物館	東風平村史	1	東風平村
仲里村誌	1	仲里村	岐阜県博物館準備室だよりNo.3	1	岐阜県教委會
鉱物化石在庫 標本リスト	1	風地学研究社	市立旭川郷土博物館だより No.24～25	2	市立旭川 郷土博物館
建設準備ニュース	1	名古屋市教委會	那霸市史 家譜資料(+) 資料篇	1	那霸市役所
岡山民俗 第115号	1	岡山民俗学会	沖縄織物文化の研究	1	紫紅社
沖縄の薬草	1	月刊沖縄社	宮古の俚諺格言	1	宮古祥雲寺
首里城茶湯崎碑文	1	新垣恒篤	南九州の通過儀礼	1	"
オリエント美術展目録	1	北九州美術館	豊前修驗道英彦山展	1	北九州市立歴史 博物館
沖縄県における農業用地下 水資源(地下水资源の量的評 価とその利用と管理につい て)	1	沖縄総合事務局	鈴木遺跡 科学館ニュース No.114,115	1	国学院大学 考古学第一研究室
宮古島水埋地質図	1	"	なりた No.11～No.13	2	市立名古屋科学館
沖縄の自然(植物)	1	中村ヨシ子	名古屋市博物館(仮称) 準備年報	3	成田山史料館
大宰府史跡	1	九州歴史資料館	所報 創刊号	1	名古屋市教育委員会

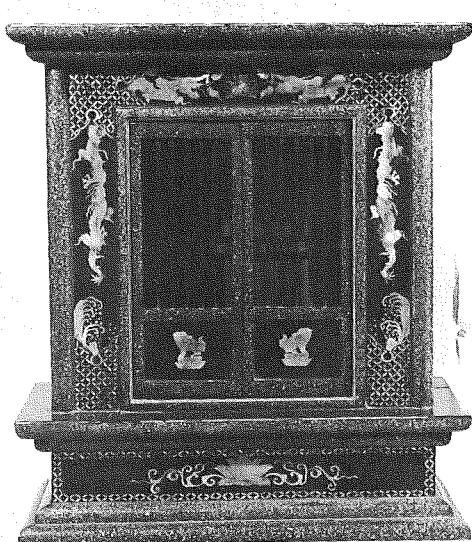
主なる新収蔵品写真



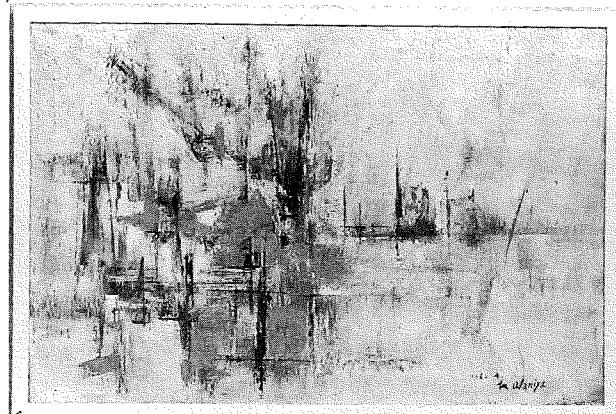
旗頭模型（金城唯興氏寄贈）



縄目文喜名焼水甕（喜屋武降孝氏寄贈）



黒塗螺鈿立牌（宮城妙子氏寄贈）



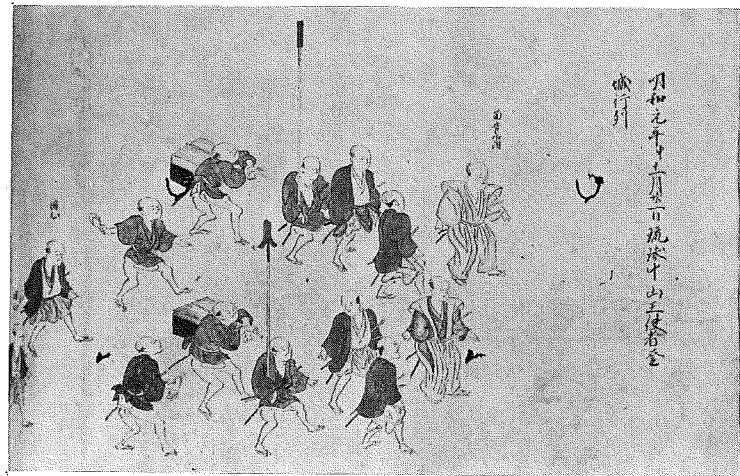
港（安谷屋正義作）



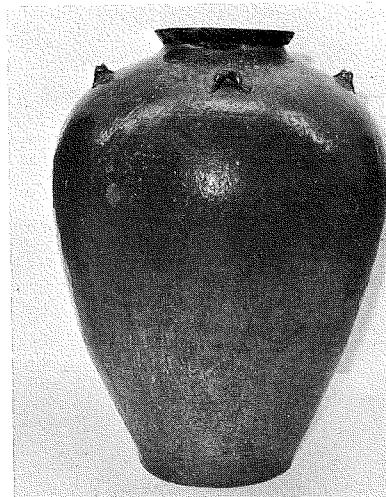
類須恵器



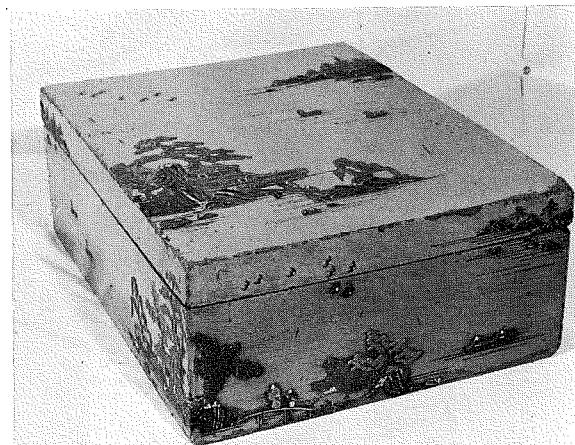
アンモナイト



琉球中山王使者行列絵巻



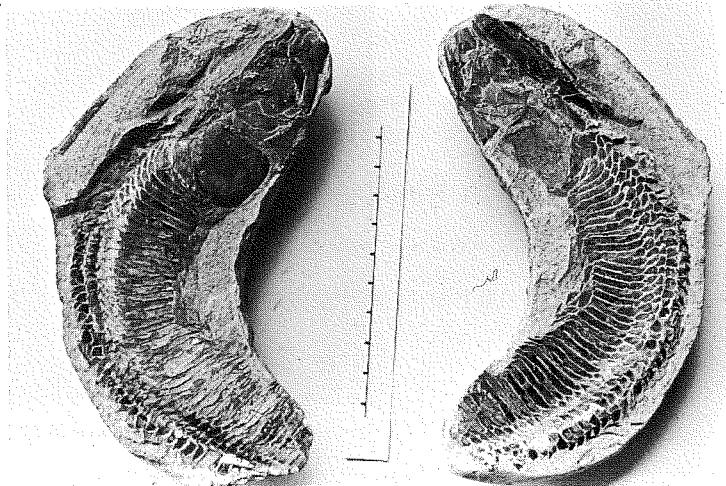
薩摩燒壺（咲元酒造寄贈）



牛塗山水繪堆錦文庫（村井順氏寄贈）



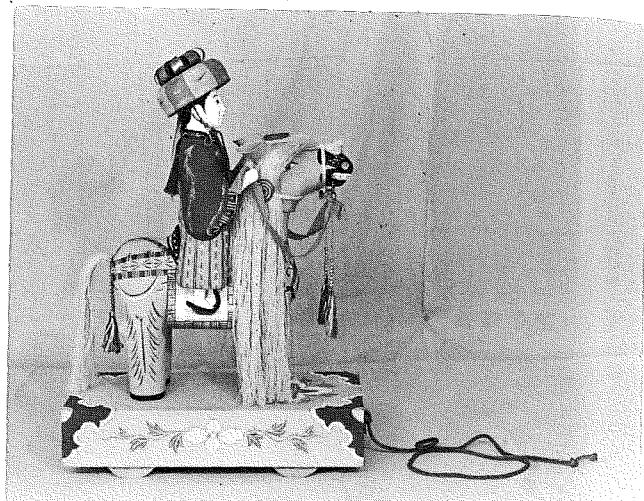
宜湾朝保和歌（米須清徳氏寄贈）



魚の化石（金城光栄氏寄贈）

岷口春殘黃鳥稀
 紅葉花飛拾憐出竹山
 不改清滄待我歸
毛世輝書

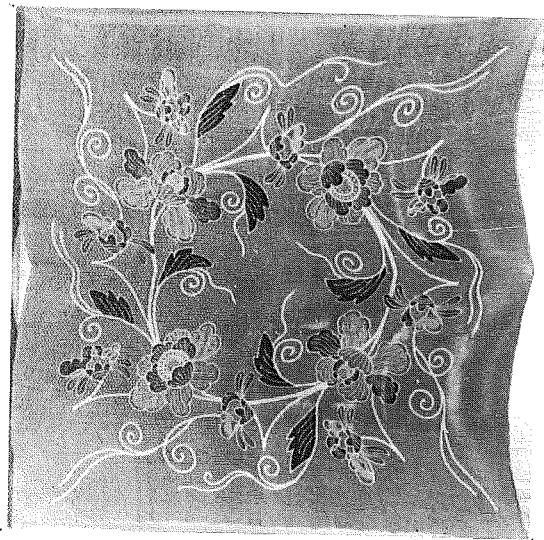
毛世輝書軸物



張子頑具 チンチングワ (崎山嗣昌作)



壺型厨子壺 (又吉昌市郎氏寄贈)



黄色地牡丹模様びんがた風呂敷

組 織

沖縄県立博物館協議会

学識経験者	照屋 寛祐 外間 政彰	教育庁文化課長 那覇市史編集室長
学校教育関係者 (会長)	福地 昇昭 田港 朝昭 安次富 長昭	沖縄県教職員組合書記長 琉球大学教育学部教授 琉球大学教育学部教授
社会教育関係者	宮里 悅 岸本 利実 松村 実 池宮 城秀 意	沖縄婦人会連合会長 県議会文教厚生委員会委員長 沖縄タイムス社長 琉球新報会長

博物館職員

館長	外間 正幸	
庶務	新崎 善清 座喜味 よしひ 下地 和子 仲松 正子 玉城 啓一郎 与那嶺 善盛	庶務係長 主事 主事 主事 技師補 用務員
学芸	新田 重清 上江洲 均 宮城 篤正 大城 逸郎 渡名喜 明	(考古・歴史・漆器) (民俗・書跡・芸能) (絵画・陶磁器・建築) (自然・石彫) (染織・木彫・装身具)

職員の異動(昭和51年3月31日現在)

転出 黒島 惇 昭和50年10月1日付

沖縄兵庫友愛スポーツセンターへ

採用 玉城 啓一郎 昭和50年10月1日付

沖縄県立博物館年報 16.9(昭和50年度)

昭和51年8月31日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

沖縄県那覇市首里大中町1の1

▼ 903 Tel 0988-32・2243

印刷 株式会社 文進印刷

住所 那覇市上間 567

電話 33-2531・55-3838

沖縄県立博物館